

# 「恋愛結婚の終焉」

## ～未婚化・少子化の死角と結婚イノベーションを考える

令和6年3月12日

インフィニティ 代表取締役 牛窪 恵

- (1) イントロダクション**
- (2) 恋愛・結婚・出産の現状
- (3) 恋愛結婚の正体
- (4) 世代区分と価値観
- (5) 近年における若年世代の傾向
- (6) 結婚イノベーションと共創結婚

# 自己紹介 (Megumi Ushikubo)

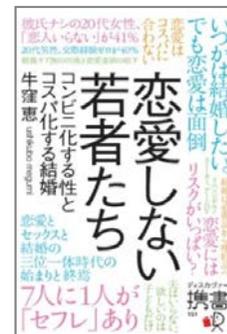


マーケティングライター / 世代・トレンド評論家  
インフィニティ代表取締役 / 立教大学大学院 (MBA) 客員教授

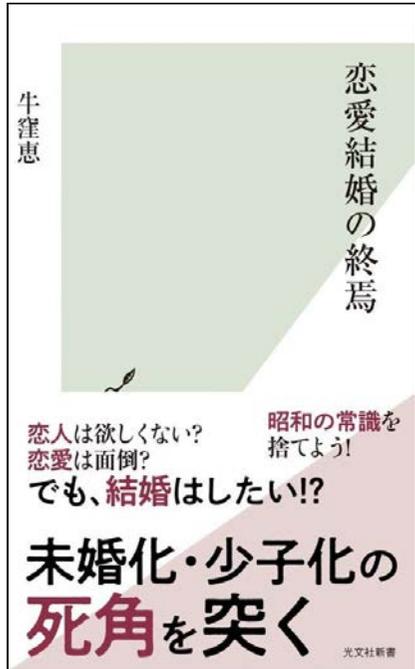
2019年、立教大学大学院修了しMBAを取得 (経営管理学 修士)、客員教授となる (現職)。  
日大芸術学部映画学科 (脚本) 卒業後、大手出版社に入社。その後、フリーライターとして  
独立し、2001年、マーケティング会社・インフィニティを設立、同代表取締役 (現職)。

これまで、財務省財政制度等審議会専門委員をはじめ、内閣官房「国・行政のあり方に関する  
懇談会」メンバー、内閣府 経済財政諮問会議政策コメンテーターほか、官庁関係の要職多数。  
同志社大学ビッグデータ解析研究会メンバー、日本マネジメント学会、日本マーケティング  
学会ほか現会員。

著書はマーケティング関連を中心に30冊。05年「おひとりさまマーケット」が、09年「草食系男子」が、それぞれ  
新語・流行語大賞に最終ノミネート。現在、日経MJ (日経新聞) などに連載を持つほか、NHK総合「サタデーウオッ  
チ9」など報道・情報系のテレビ番組にもレギュラーコメンテーターとして出演中。



## ※昨秋発売『恋愛結婚の終焉』（光文社新書）



～ひと言で言えば……

結婚の「プロセス・イノベーション」の重要性について、検証・提言した本です。



プロデューサー＝ **干場 弓子氏**  
(Yumiko Hoshiba)

International Publishers Association日本代表理事。  
BOW&PARTNERS代表。

お茶の水女子大学文教育学部卒。1984年、ディスカヴァー・トゥエンティワン設立に参画。元取締役社長。

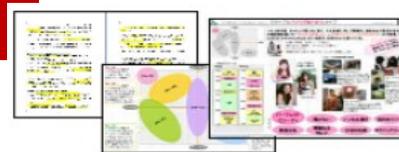
『「婚活」時代』をプロデュースしたことで知られる

## 弊社・インフィニティ（2001年4月設立）

- 女性の強みとされる傾聴力を活かした「**定性調査（インタビュー調査）**」を中心に、社会環境による**消費者の行動心理やインサイトの変化**を掴む
- これまでに金融、IT、地方自治体、大手ディベロッパーほか、住宅、自動車、家電、食品、飲料、美容メーカー等各社と**数多くの商品・サービス開発**を行なう

### マーケティング調査

#### 定量調査



大人数に対し、手配りやインターネットやビッグデータ等による同一内容、同一視点で調査し、「数」で傾向を見る

#### 定性調査



少人数に対し、1対1やグループインタビュー等による対面形式で調査し、「言葉と表情」で内面を知る

## (1) 近年、消費研究で感じること = 若者のリスク回避

### 「ビールって、飲んでナンになるんすか？」 (2006~07年)

- ・「飲み過ぎて正体なくしたら、周りに迷惑かかるし」
- ・「終電逃したら、タクシー代かかるじゃないすか」
- ・「酔って頭痛になると、次の日の仕事に差し障る」

出所: photo ac



- 行動より前に「結果 (リスク)」を予測し、  
リスクヘッジしている！？  
(終身雇用制の崩壊、自己責任論、上世代が反面教師?)
- だが「酔った気分になる (アがる)」のは、  
決して嫌いではない？

だとすれば

「ビール=アルコール」の画一的な概念から脱し、  
「低アル、ノンアル」のパターンを増やしては？

## (1) 近代マーケティングの定義と「共創 (Co-Creation) 」

- 「顧客や社会と共に**価値を創造**し、その価値を広く**浸透させる**ことによって、**ステークホルダーとの関係性を醸成**し、より**豊かで持続可能な社会を実現**するための構想でありプロセスである」

[2024 日本マーケティング協会]

(Marketing is processes, strategies, and activities aimed at co-creating value with customers and society while fostering relationships with stakeholders through the extensive dissemination of this value. Its overarching objective is to advance a more prosperous and sustainable societal paradigm.)

- 「**共創**とは、**様々なステークホルダーと協働**して、**共に新たな価値を創造**することである」

C.K. Prahalad, Venkat Ramaswamy 『The Future of Competition: Co-Creating Unique Value With Customers』 [2004]

<近代マーケティングの傾向>



- **ステークホルダーとの「価値共創」と関係性を重視**
- 「**持続可能**」な社会の追求
- **主体 (企業、団体、個人) の「多様化」に対応**

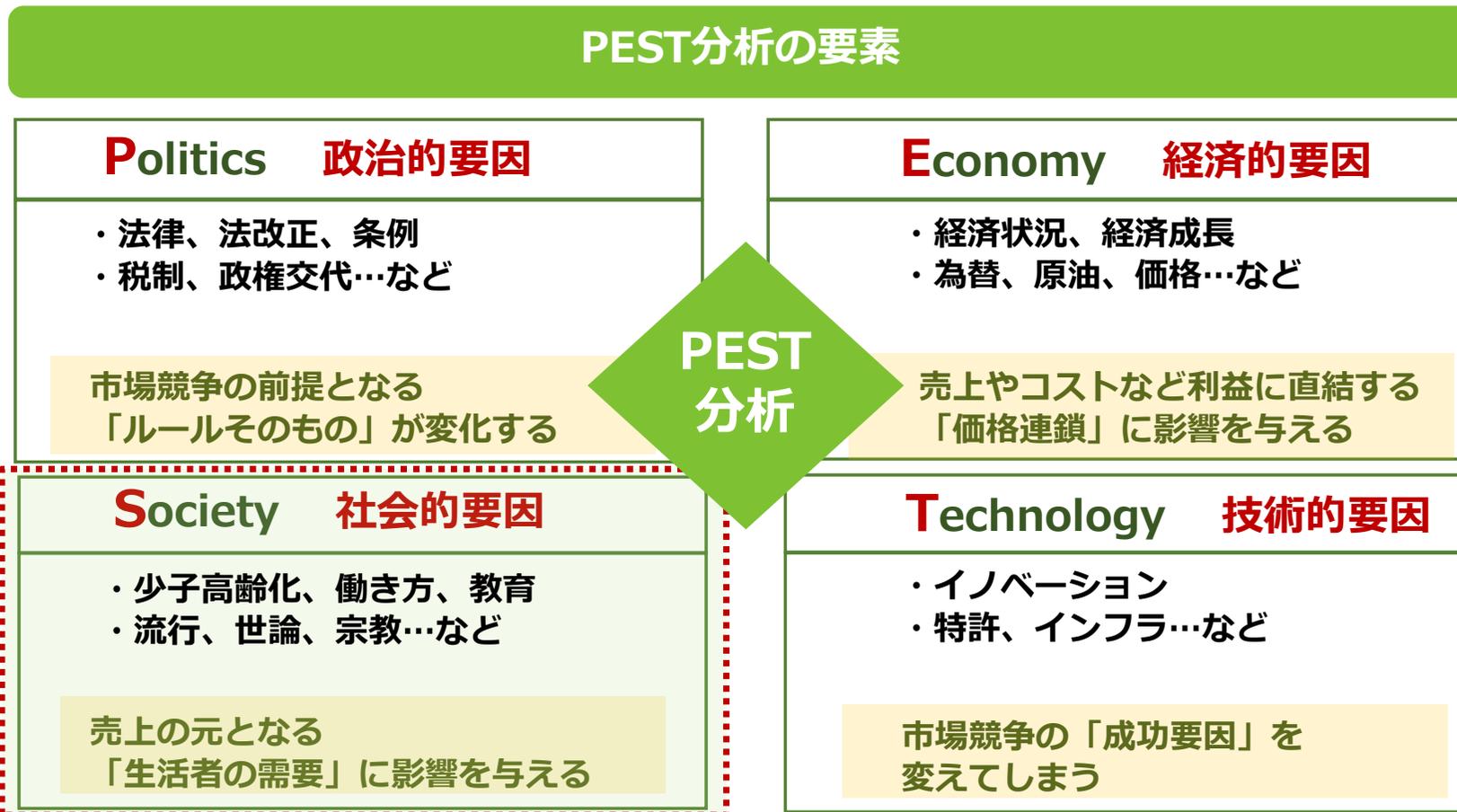
<目的>

**「新価値創造」**



# (1) Kotler (コトラー) 「PEST analysis」の視点 (『Principles of Marketing [2015] )

- 「調査をせずに市場参入を試みるのは、目が見えないのに市場参入をしようとするようなものである」



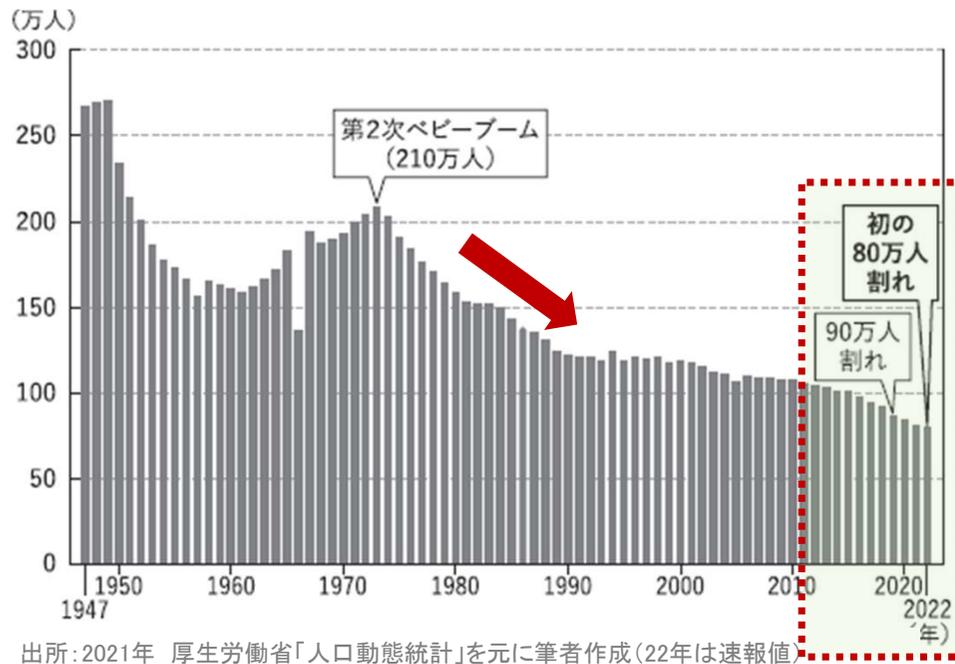
出所:basic「ferret」  
[2022年9月9日掲載]  
を元に筆者作成

- (1) イントロダクション
- (2) 恋愛・結婚・出産の現状**
- (3) 恋愛結婚の正体
- (4) 世代区分と価値観
- (5) 近年における若年世代の傾向
- (6) 結婚イノベーション = 共創結婚の時代へ

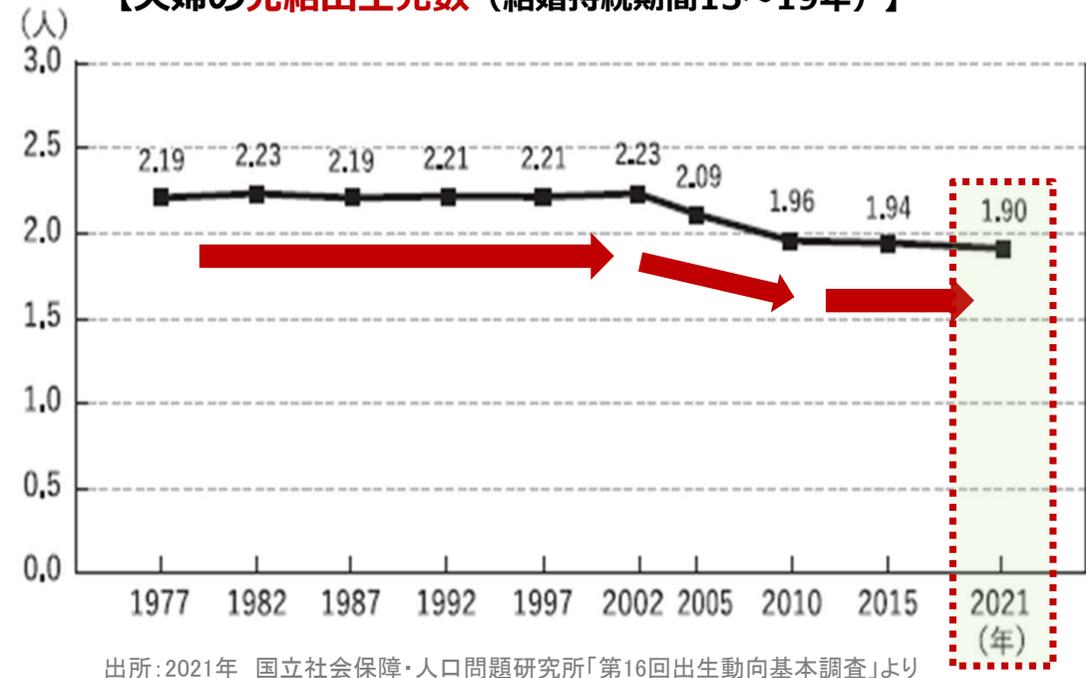
## (2) 恋愛・結婚・出産の現状 ① 少子化の現状

- 年間出生数は、**第2次ベビーブーム**（1971～74年生まれ／おもに団塊ジュニア世代）で約**210万人**にのぼったが、2016年に100万人／年を、2019年には90万人／年を下回った（厚生労働省「人口動態統計」）。
- **2023年の出生数**（外国人を含む）は**75万8631人**で**8年連続で減り、過去最少**。
- 一方で、**結婚した夫婦が産む子どもの数**（完結出生児数）は、**40年の間でさほど減ってはいない**。

### 【出生数の推移】



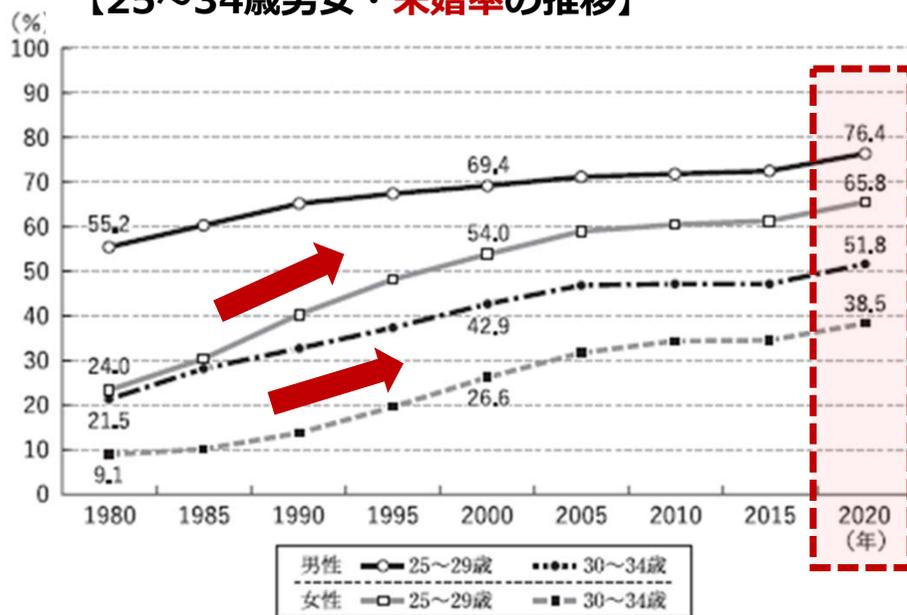
### 【夫婦の完結出生児数（結婚持続期間15～19年）】



## (2) 恋愛・結婚・出産の現状 ②未婚化の現状

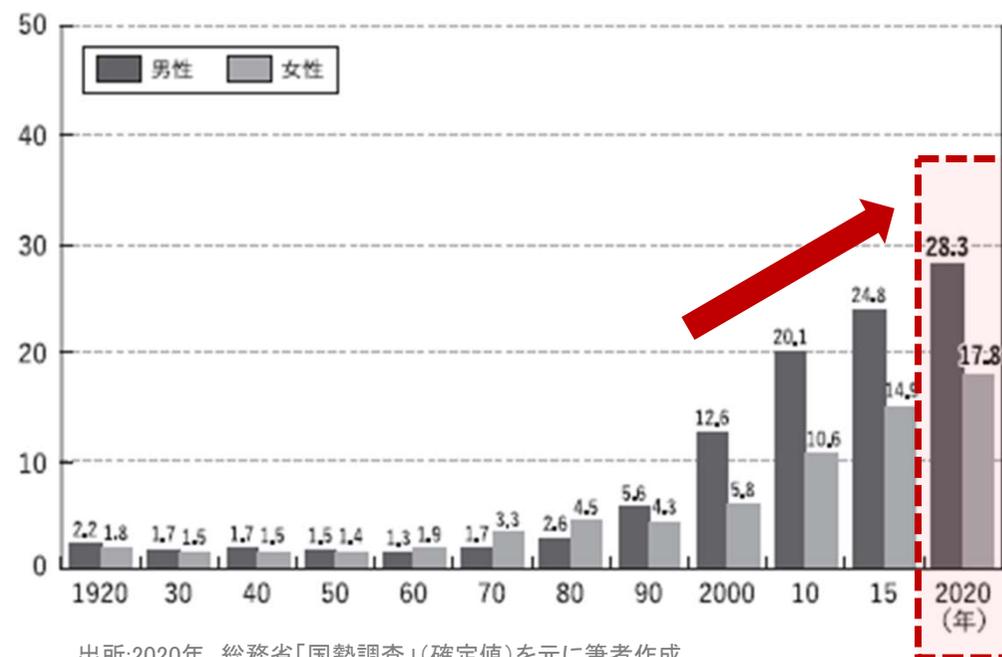
- 1980年代半ば以降、**結婚適齢期（25～34歳）男女の「未婚率上昇」**が顕在化。  
 = 1980～2000年の間に、**25～29歳女性の未婚率が2倍以上**（24.0%→54.0%）に、**30～34歳女性では3倍近く**（9.1%→26.6%）にまで伸長。  
 = 同期間、**25～29歳男性でも1.25倍**（55.2%→69.4%）に、**30～34歳男性で約2倍**（21.5%→42.9%）に。
- **生涯未婚率**は、既に**男性で3割弱**（28.3%）、**女性でも5,6人に1人**（17.8%）にまで達している。

【25～34歳男女・未婚率の推移】



出所:2022年 内閣府「少子化社会対策白書」より  
 注:2020年のみ、総務省「国勢調査」(確定値)より

【生涯未婚率（45～49歳と50～54歳の未婚率の平均値）の推移】

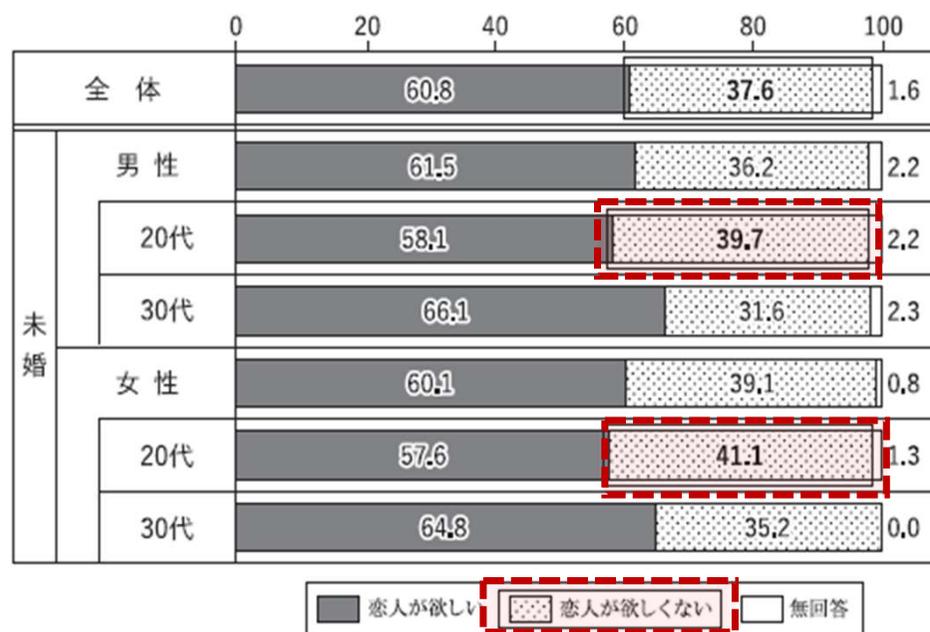


出所:2020年 総務省「国勢調査」(確定値)を元に筆者作成

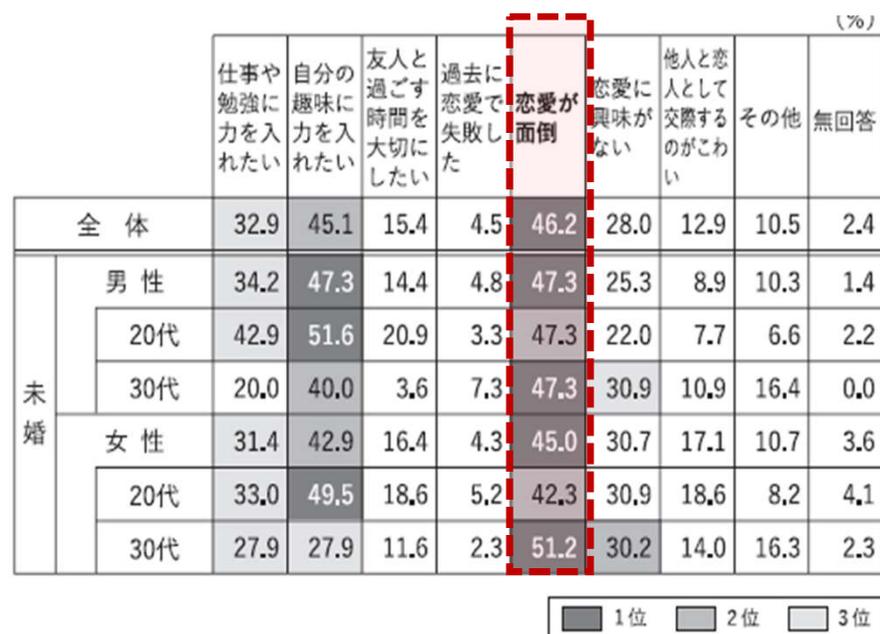
## (2) 恋愛・結婚・出産の現状 ③-1 恋愛の現状 (2014年時点)

- 2014年、内閣府が若者の「恋愛離れ」について調査。当時の20、30代（未婚男女）の約6割に恋人がおらず、いない男女の約4割（37.6%）が「恋人が欲しくない」と回答。
- また、彼らが「欲しくない」とする最大の理由では「恋愛が面倒」が約5割（46.2%）であった。

【未婚者、かつ恋人がいない20代（約6割）の4割が「恋人が欲しくない」】



【恋人が欲しいと思わない理由、第1位は「恋愛が面倒」】



出所:2014年 内閣府「結婚・家族形成に関する意識調査」より

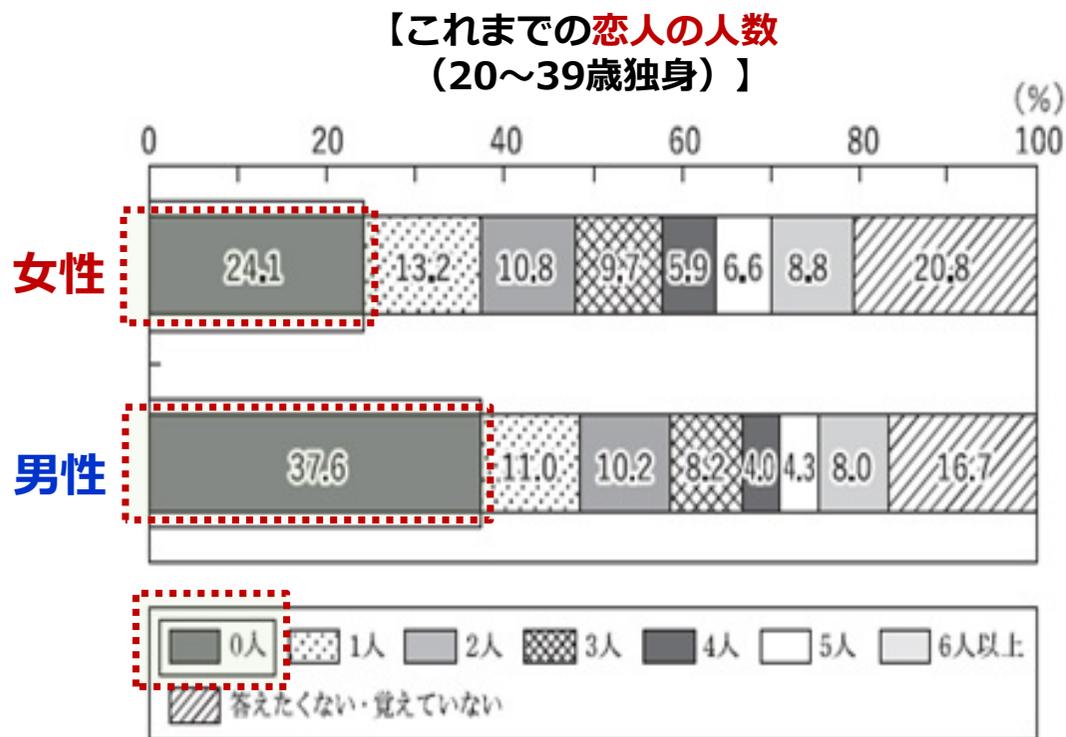
出所:2014年 内閣府「結婚・家族形成に関する意識調査」より

## (2) 恋愛・結婚・出産の現状 ③-2 恋愛の現状 (2022年時点)

- 2022年、内閣府が20～39歳の独身者に調査したところ、**女性で約4人に1人** (24.1%)、**男性で約4割** (37.6%) が**一度も、誰とも、異性との交際経験がなかった**。
- 30代後半**になってから、周囲のサポートなしに「初めて異性と交際する」のは、**相当ハードルが高い**と思われる。



出所: 拙著「恋愛結婚の終焉」  
(光文社新書)



出所:2022年 内閣府「男女共同参画白書」より



「恋愛→結婚へ」という  
プロセスの画一化を  
を変えないと

結婚は減る一方？

## (2) 恋愛・結婚・出産の現状 ④ 恋愛離れの理由

### 「恋愛って、コスパ悪いですよね」 (2015~23年)

- ・「だって、結婚に繋がらなかったらムダなだけですよね」
- ・「そもそも、結果がどうなるか分からないし」
- ・「それなのに、お金も時間もやたらとかかる」
- ・「それより、ほかに楽しいこといくらでもありますから」



:出所: photo ac

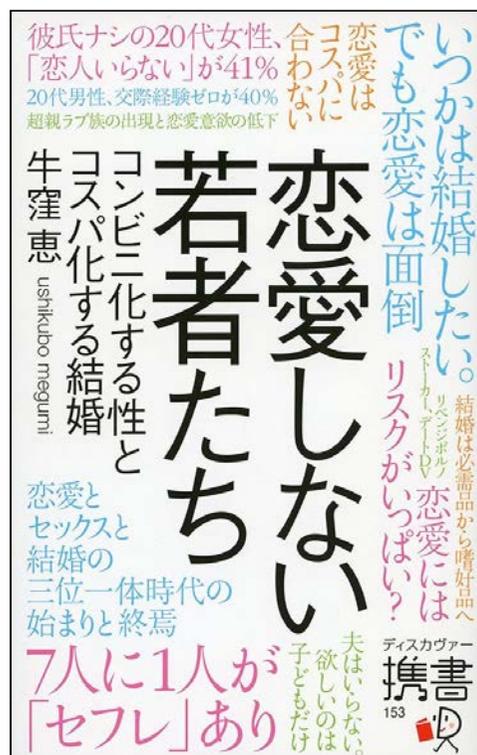
確かに、いまや「恋愛より楽しいこと」が  
いくらでもある時代

(オンラインゲーム、SNS、推し活、メタバース……)



逆に「恋愛リスク」が多々言われる時代になった  
(ストーカー、デートDV、悪目立ち、リベンジポルノ……)

## ※2015年発売『恋愛しない若者たち』（ディスカヴァー21）



当時の若者たち（20代）が「**恋愛しない理由**」について、定量及び定性調査から考察。

### <当時「恋愛しない理由」として挙げた5要素>

1. **超情報化社会**がもたらした功罪
2. **男女平等社会**と**男女不平等恋愛**のギャップ
3. **超親ラブ族**と**恋愛意欲**の封じ込め
4. **恋愛リスク**の露呈と**リスク回避**
5. **バブル崩壊**と**不況**による「**恋愛格差社会**」

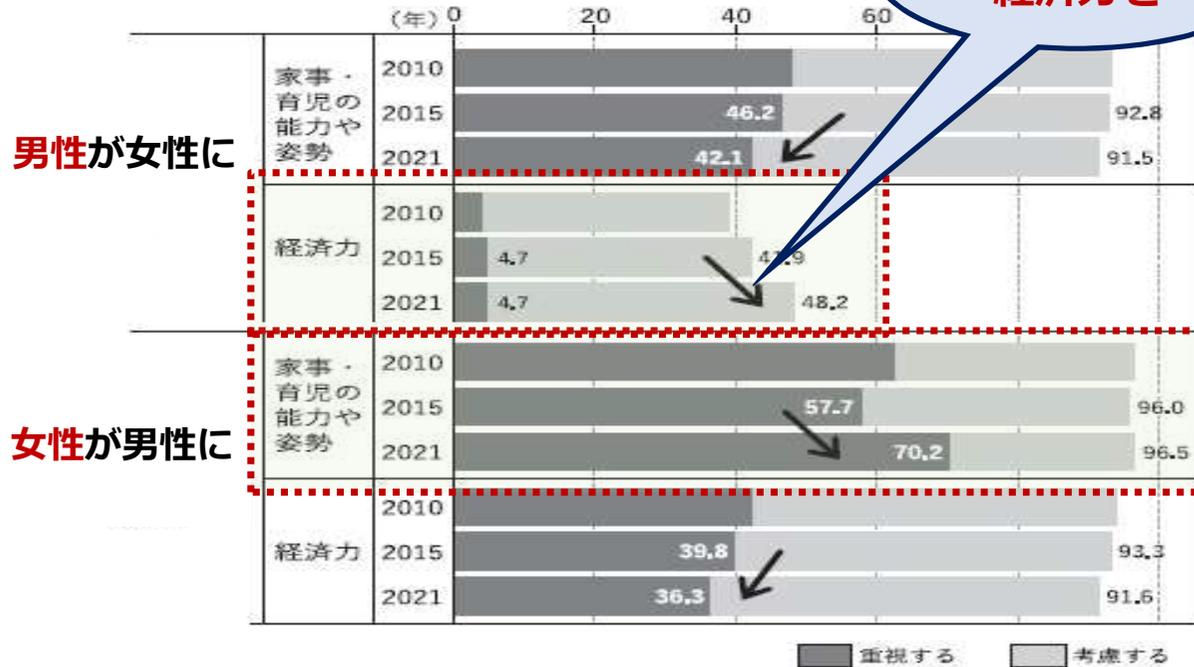
## (2) 恋愛・結婚・出産の現状 ⑤恋愛と結婚のニーズ乖離

- 2021年の国立社会保障・人口問題研究所の調査では、18~34歳の独身者で**男性の約5割**が**未来の妻に「経済力」**を、**同女性の9割以上**が**未来の夫に「家事・育児能力や協力姿勢」**を求めている。
- 半面、両者とも「恋愛」相手に求める内容はほぼ真逆で、未だに「男(女)らしさ」を求めている

【未婚者(18~34歳)が「結婚相手の条件」と重視・考慮する割合】



出所 拙著「恋愛結婚の終焉」(光文社新書)



男性は女性に  
経済力を



出所: photo ac

女性は男性に  
イクメン力を

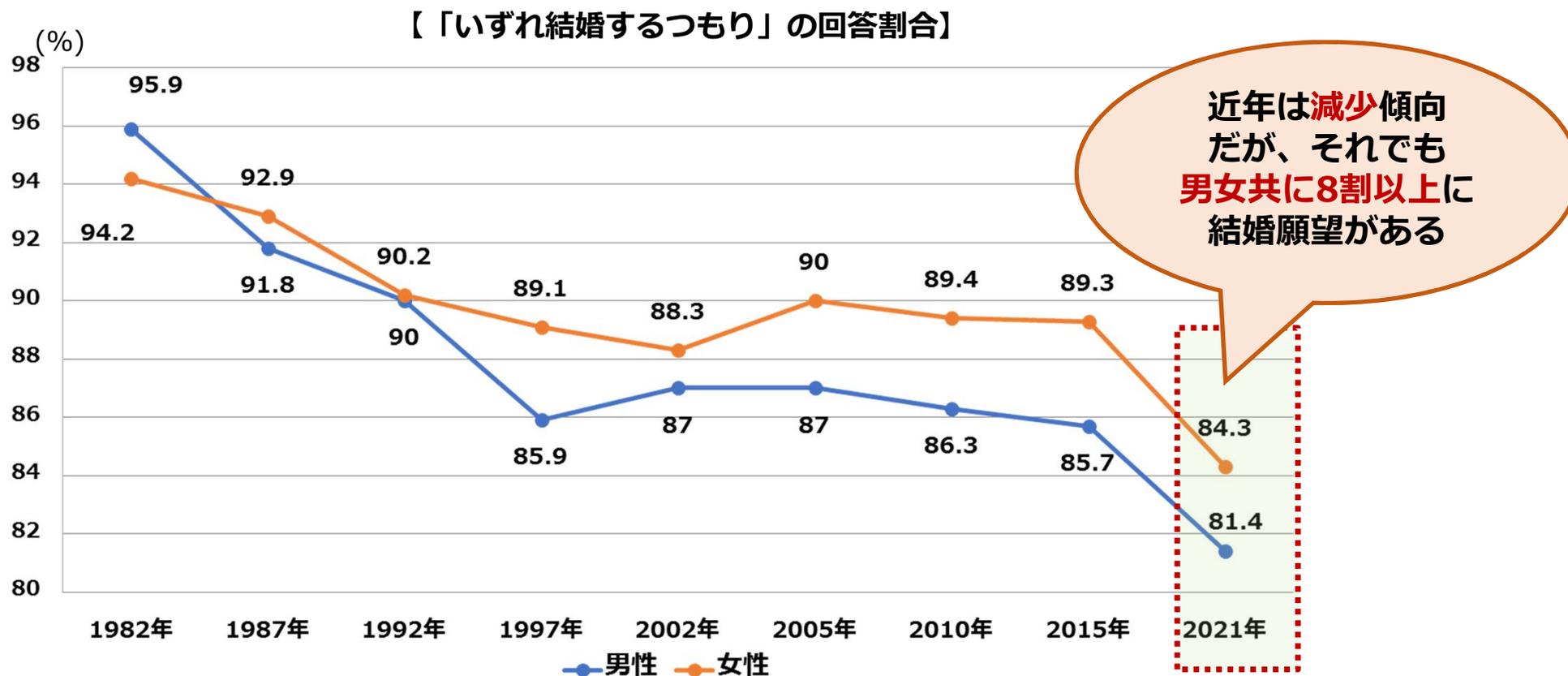


…それぞれ求める時代に

出所:2021年 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」を元に筆者作成  
注:対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18~34歳の未婚者

## (2) 恋愛・結婚・出産の現状 ⑥結婚願望の推移

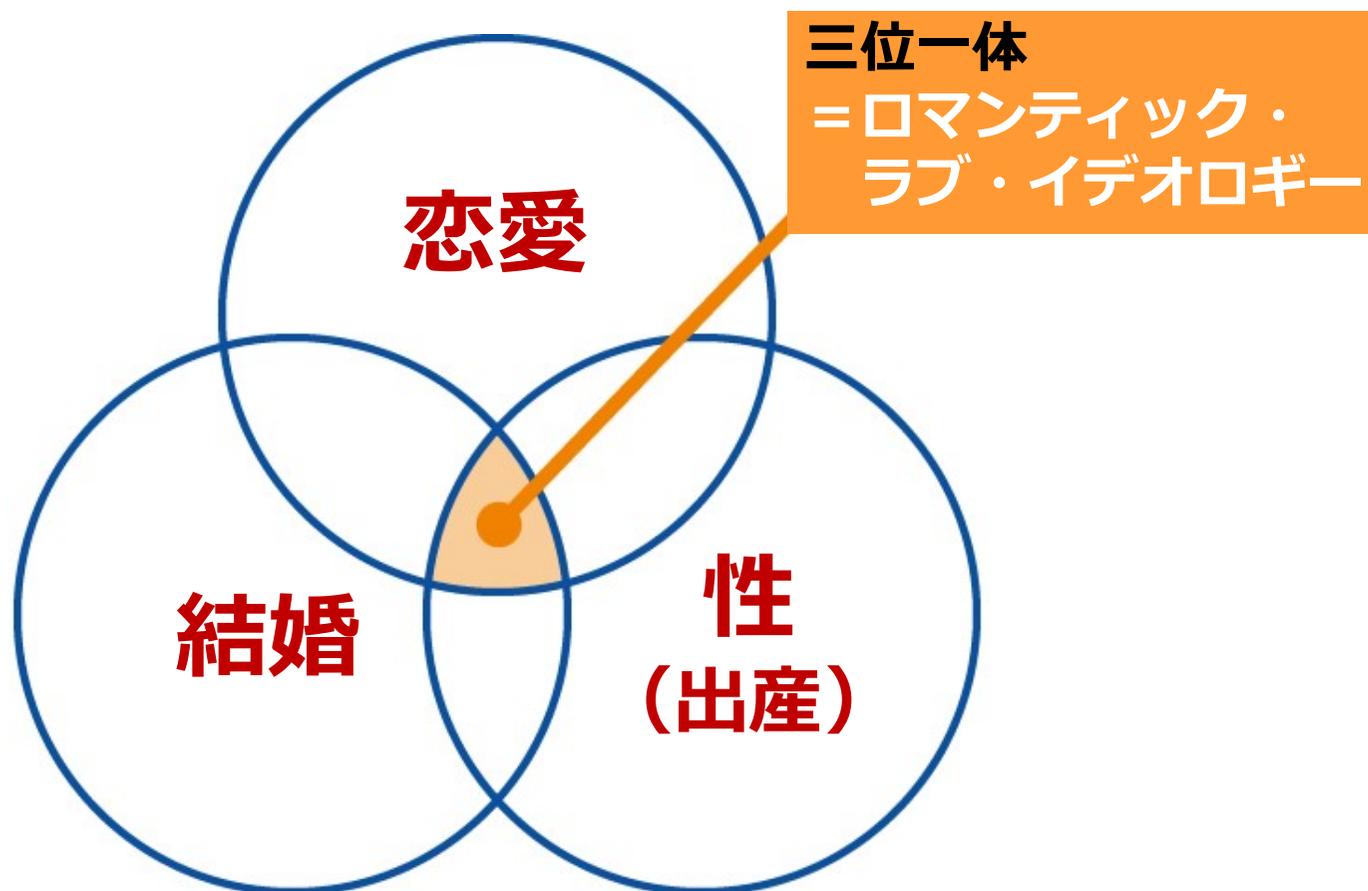
- 近年、未婚化や若年層の「恋愛離れ」が顕著な半面、「**いずれ結婚するつもり**」の回答割合（結婚願望）についてはこの30年で**さほど衰えなかった**。それでも2015年から21年にかけては、減少傾向が目立つ。



出所:2021年 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」を元に筆者作成

- (1) イントロダクション
- (2) 恋愛・結婚・出産の現状
- (3) 恋愛結婚の正体**
- (4) 世代区分と価値観
- (5) 近年における若年世代の傾向
- (6) 結婚イノベーション = 共創結婚の時代へ

### (3) 恋愛結婚の正体 ①ロマンティック・ラブ・イデオロギー



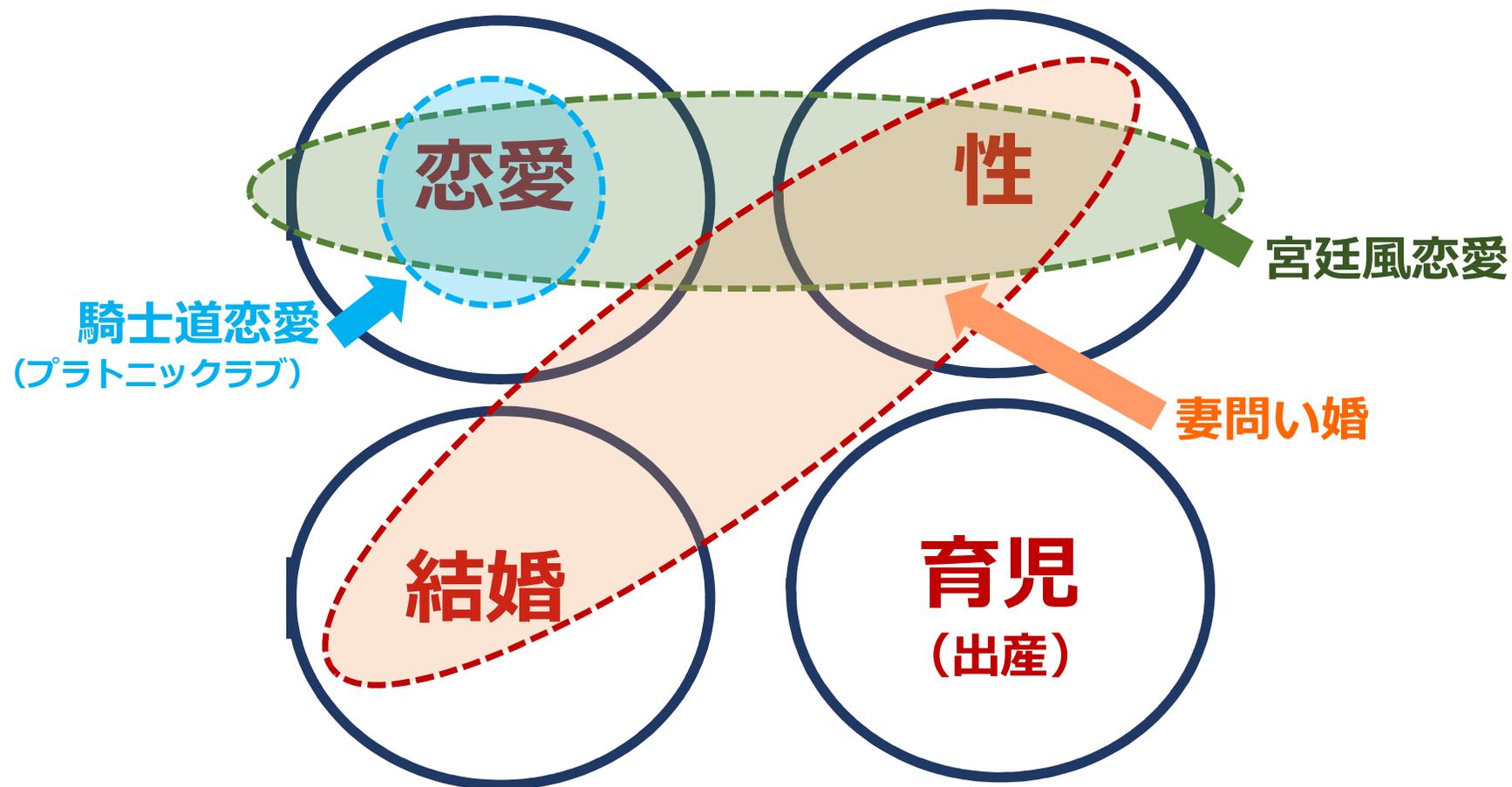
実はもともと  
恋愛・結婚・  
出産は  
別々に切り離  
されていた

= **ロマンティック・ラブ・イデオロギー**  
が一般化してから、日本ではまだ  
**60年程度の歴史**しかない

…だとすれば、**令和のいま**  
改めてこの**概念を見直す**べきでは？

||  
結婚における  
「**プロセス・イノベーション**」

### (3) 恋愛結婚の正体 ②三位一体以前の姿 (例)

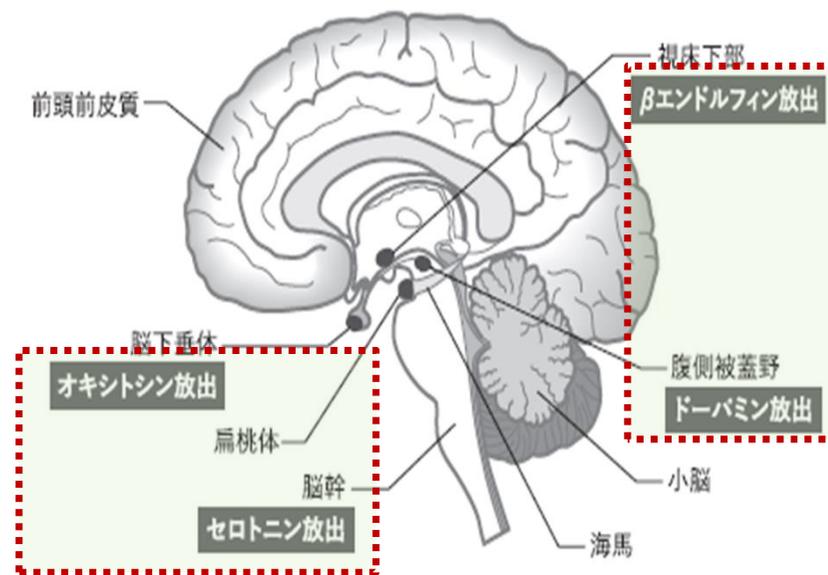


# そもそも 「恋愛」と「結婚」は 「混ぜるなキケン」

～恋愛（快感）と結婚（幸福感）は、  
生物の原理的・本質的に別物であり、  
科学的定義自体がまったく異なる

（認知脳科学者・澤口俊之氏）

## 【脳の構造と神経伝達物質の一例】



出所:「時事メディカルー家族の医学」(時事通信)ほかを元に筆者作成

現代の男女は  
「ロマンチック・マリッジ」  
というゾンビに縛られている

～社会経済的条件が見合うだけでは不十分で、  
そのうえ恋愛感情まで必要とされる。  
結婚に、条件と感情の  
「二重の重荷」が背負わされているのだ

(関西大学・谷本奈穂教授)

「もともとロマンチック・ラブは  
幻想だった」

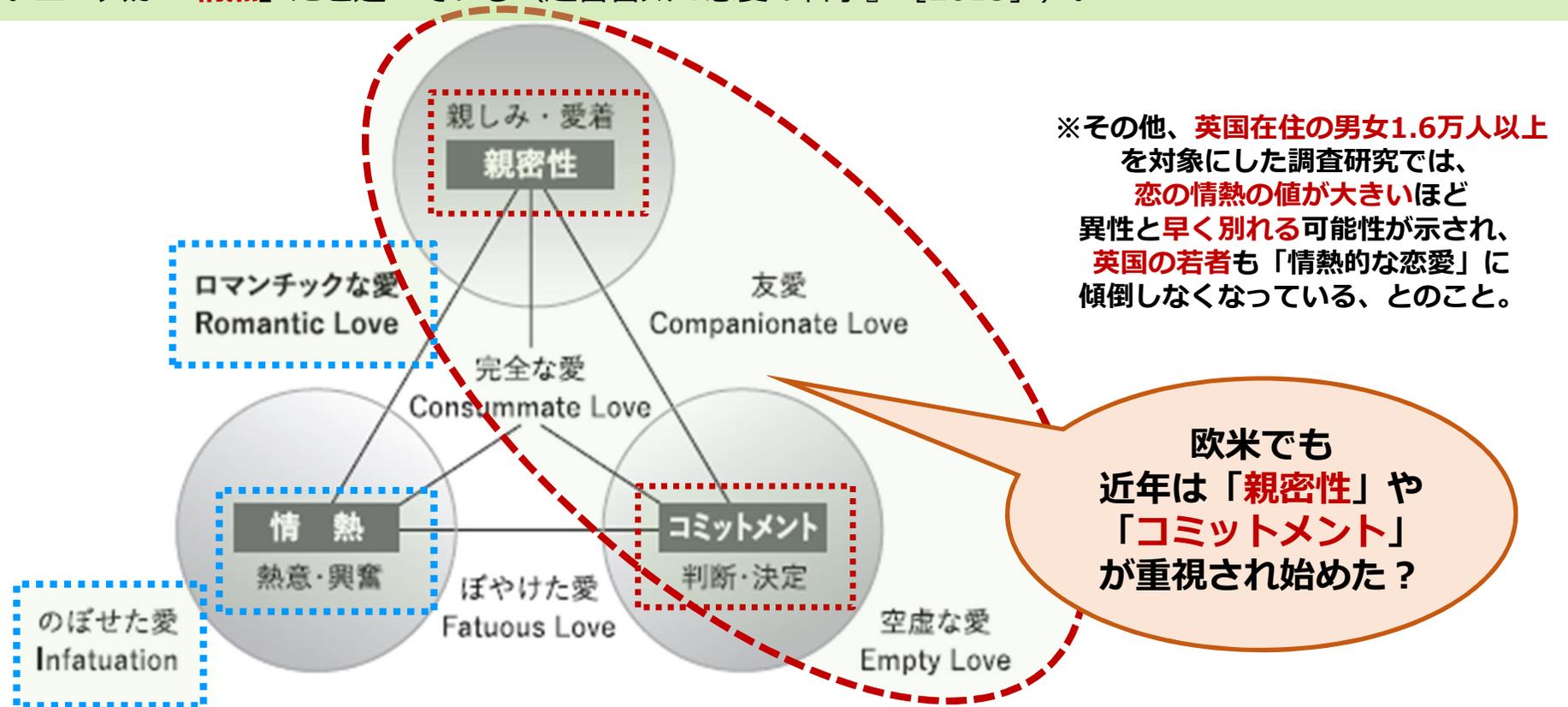
～多くの人がドラマや漫画で洗脳されている  
だけで、長い歴史上、3つが揃うことなど  
滅多になかった  
(東京大学・上野千鶴子名誉教授)

「1992年、ロマンティック・  
ラブは既に機能不全に  
陥っていた」

～自由恋愛が提唱されるようになり、  
統計的にも  
「恋人ではないがデートする友人がいる」  
と答える男女が増えていた  
(中央大学・山田昌弘教授)

### (3) 恋愛結婚の正体 ③スタンバーク「愛の三角理論」

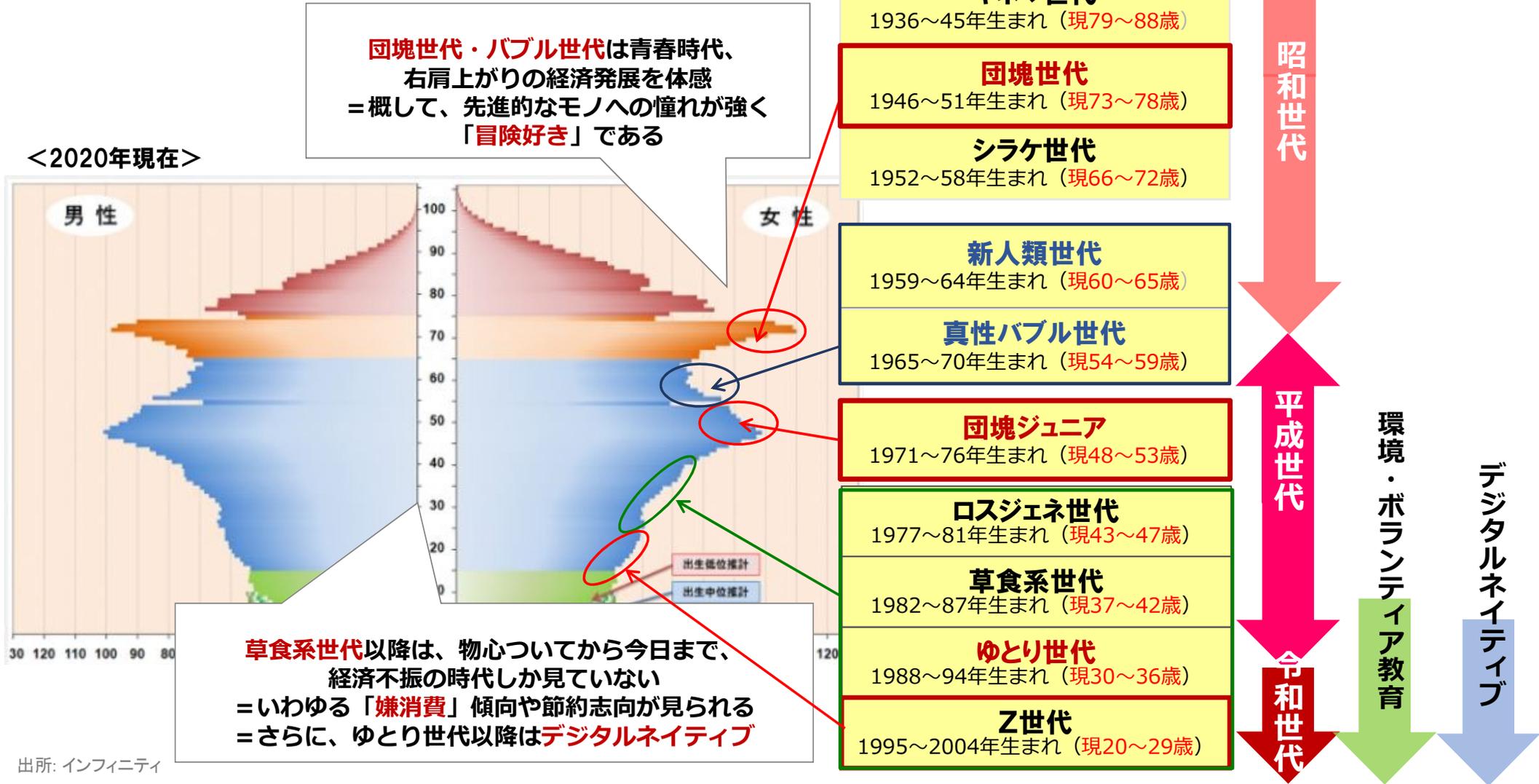
- 法政大学文学部・越智啓太教授は近年、**米国の若者**が「情熱的な恋愛」を好まなくなっているようだと言及。また、**日本の若者**においても「愛の三角理論」において「**親密性**」を求める傾向が最も多く、次いで「**コミットメント**」、最も少ないニーズが「**情熱**」だと述べている（越智啓太『恋愛の科学』[2015]）。



出所:Robert Sternberg[1996]A triangular theory of love, Psychological Review, 93(2)、『イラストレート恋愛心理学』(誠信書房/齊藤勇 編著)などを元に筆者作成

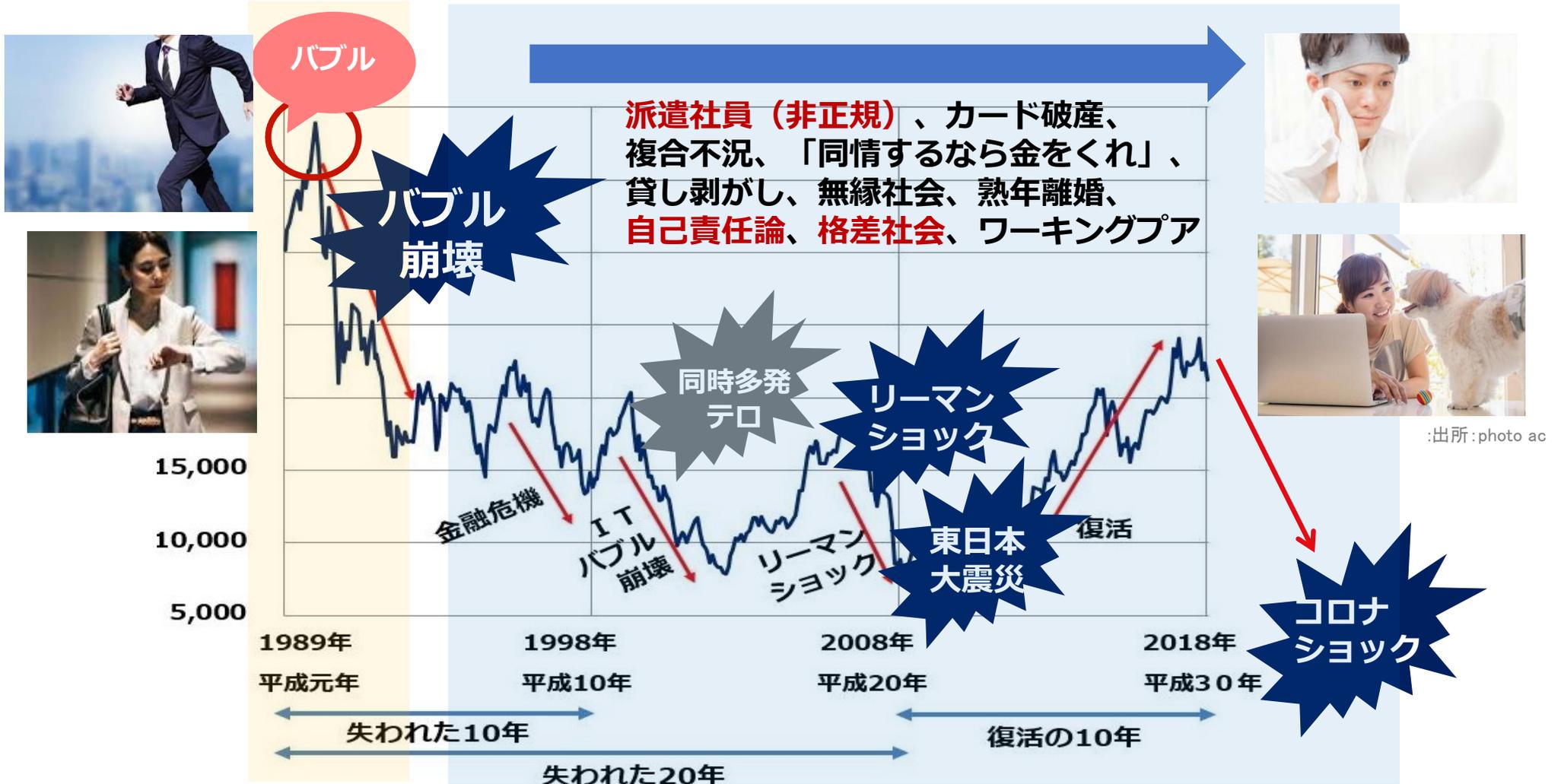
- (1) イントロダクション
- (2) 恋愛・結婚・出産の現状
- (3) 恋愛結婚の正体
- (4) 世代区分と価値観**
- (5) 近年における若年世代の傾向
- (6) 結婚イノベーション = 共創結婚の時代へ

# (4) 世代区分と価値観 ①人口ピラミッド



出所: インフィニティ

## (4) 世代区分と価値観 ② バブル景気～コロナショック



出所: 楽天証券経済研究所の資料を基に筆者作成・加筆

## (4) 世代区分と価値観 ③若年世代の傾向

- 20代人口は、1995～2018年までの**23年間で、3割以上減少**した（2015年 総務省「国勢調査」/ 2018年 総務省「人口推計」）
- ただし若者の価値観は“進化”か = 「失敗したくない」（草食系世代）→「無駄なことはしたくない」（ゆとり世代）→Z世代（※）は「失敗に備えてリスクヘッジ（二刀流）」へ

世代名/項目	草食系世代	ゆとり世代	Z世代
生誕	1982～87年生まれ（現37～42歳）	1988～94年生まれ（現30～36歳）	1995～2004年生まれ（現20～29歳※）
メディアとの関わり	ガラケー・絵文字&ネットコミュニティ（ミクシィ他）	スマホ・画像&デジタルネイティブ	動画・VR&SNSネイティブ
居住傾向	地元志向	地方・田舎への憧れ	デュアル（二拠点）志向
消費特性	節約志向	コスパ志向	タイパ&イミ志向（含・廃棄/リノベ）
自己投資意欲	弱	中	強
価値観	失敗したくない	無駄なことはしたくない	失敗に備えてリスクヘッジ（二刀流）
社会観	エコ・周囲に迷惑をかけない	社会貢献・社会に役立つことをする	サステナビリティ・社会を永続的なものにする
親との関係	友達母娘（母息子）	親ラブ族（含・父親）	ファミラブ族（含・祖父母）

米国における定義

ミレニアル（ジェネレーションY）

ジェネレーションZ

コト消費

イミ（意味）消費

出所: インフィニティ

※拙著『若者たちのニューノーマル』（日経BP）執筆時点（2020年末）では、17～26歳と定義

## (4) 世代区分と価値観 ④ ジェンダー平等意識

- 現20代は、職場において「**ジェンダー平等志向**」が強い傾向にある半面、内閣府の調査によれば、**結婚について「性別役割分業意識（男たるもの、女だから…など）」に対する違和感**を（主に親から）おぼえた経験は、男女共に50代以上が顕著であり、**若い世代ではさほどではない**。上の世代がジェンダー平等に配慮している様子が伺える。

【SDGs17項目のうち、仕事で関わりたい項目】

### 20代

第1位  
すべての人に健康と福祉を  
(49%)

第2位  
住み続けられるまちづくりを  
(44%)

同率第2位  
ジェンダー平等を実現しよう  
(44%)

### 30代

第1位  
すべての人に健康と福祉を  
(53%)

第2位  
住み続けられるまちづくりを  
(47%)

第3位  
貧困をなくそう  
(46%)

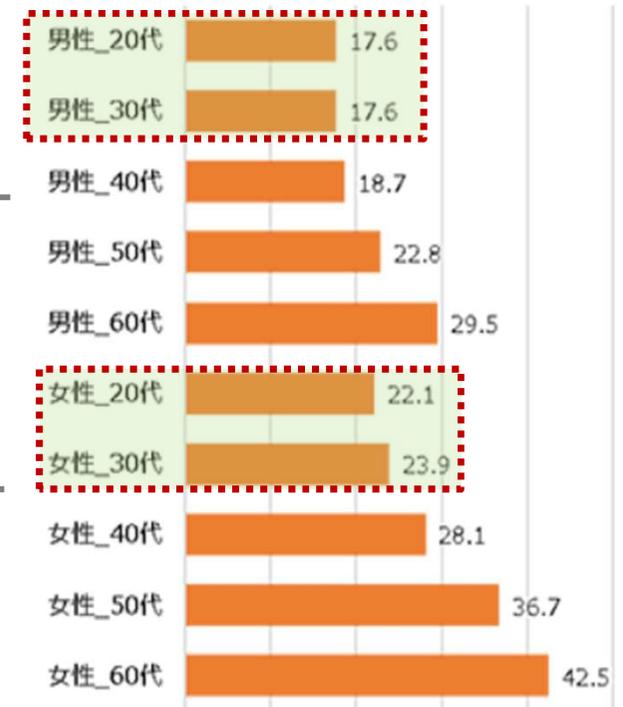
### 40代以上

第1位  
すべての人に健康と福祉を  
(53%)

第2位  
働きがいも経済成長も  
(48%)

第3位  
貧困をなくそう  
(47%)

【性別役割分業意識（結婚）に対する違和感】

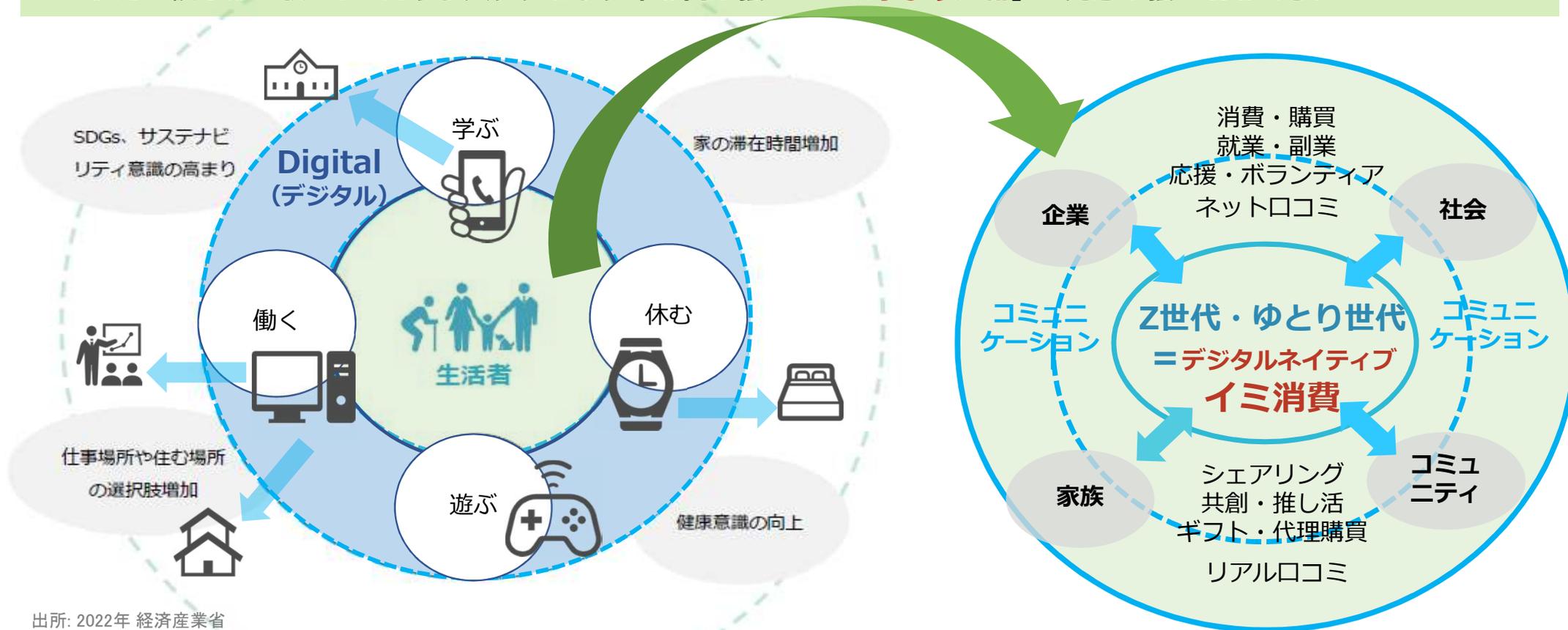


出所: 2023年 エン・ジャパン「SDGs」意識調査を基に筆者作成

出所: 2022年 内閣府 男女共同参画局「性別役割意識（性年代別）における結婚に対する価値観の相違」

## (4) 世代区分と価値観 ⑤ デジタル(SNS)の影響

- 現在、おもに20代～30代半ばにあたる「ゆとり&Z世代」は**デジタルネイティブ**であり、消費行動や働き方において人との繋がりや「**イミ（意味合い）**」を重視する傾向にある。
- また、彼らは一般にSDGsやサステナビリティ志向が強く、「**競争より共創**」の発想が強いとされる。



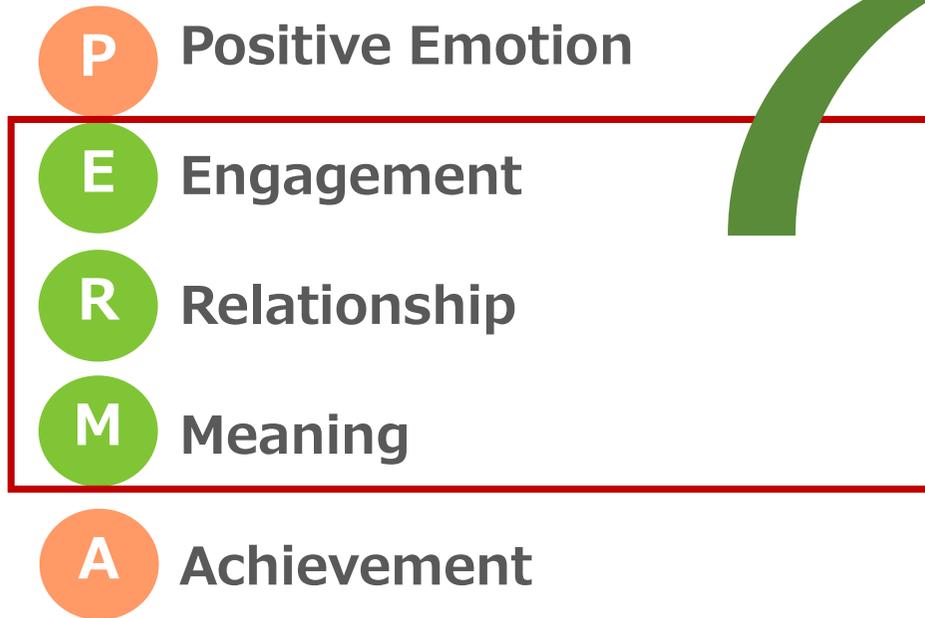
出所: 2022年 経済産業省  
「生活者を取り巻く環境変化/ 論点提示」  
(同3月11日開催・第1回 生活製品産業研究会)を元に筆者加筆

出所: インフィニティ

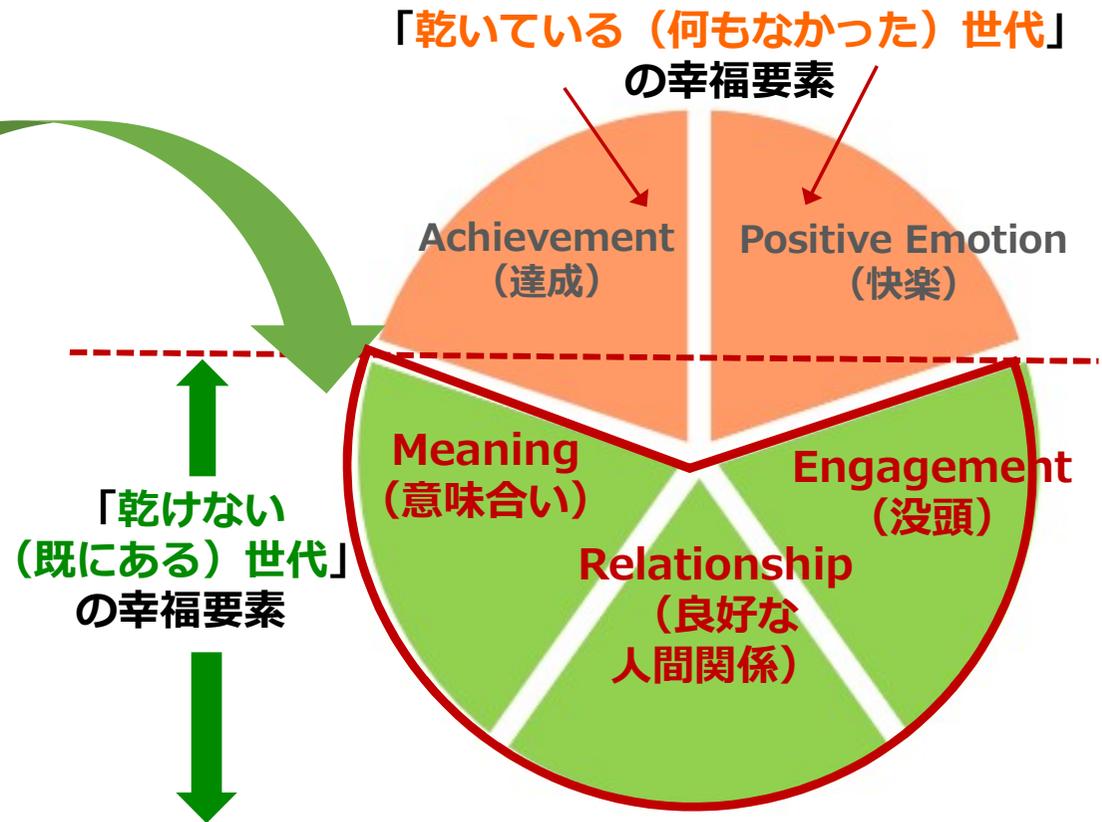
## (4) 世代区分と価値観 ⑥ 「意味合い」と「良好な人間関係」

- 近年、消費の現場で「モノからコトへ」が言われて久しいが、**Z世代やゆとり世代**（現10代後半～30代前半）への定性・定量調査を通じ、彼らは「コト」よりさらに進んだ「**イミ（意味）**」消費世代だと感じる。詳しくは後述する
- 一部の識者は、セリグマンが提唱したポジティブ心理学のPERMAモデルを応用し、「**Meaning（意味合い）**」や「**Relationship（良好な人間関係）**」の重要性を強調する

<マーティン・セリグマンが提唱した  
Well-beingのPERMAモデル>



出所: Martin E. P. Seligman 「Authentic Happiness: Using the New Positive Psychology to Realize Your Potential for Lasting Fulfillment」[2004]を基に筆者作成



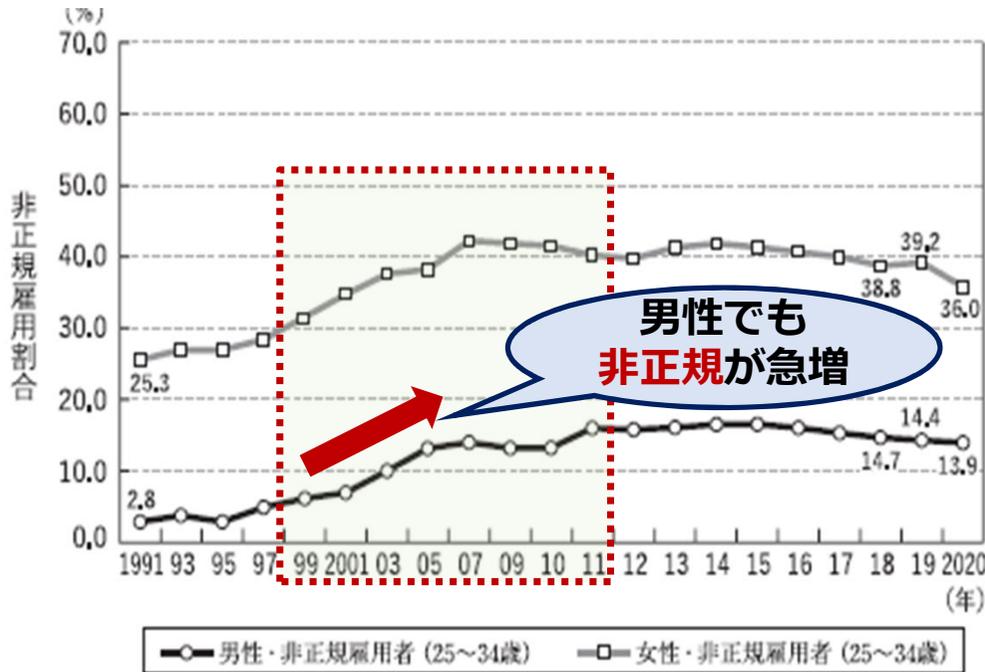
出所:尾原和啓『モチベーション革命』（幻冬舎）[2017]ほかを基に筆者作成

- (1) イントロダクション
- (2) 恋愛・結婚・出産の現状
- (3) 恋愛結婚の正体
- (4) 世代区分と価値観
- (5) 近年における若年世代の傾向**
- (6) 結婚イノベーション = 共創結婚の時代へ

## (5) 近年における若年世代の傾向 ① 男性の年収と既婚割合

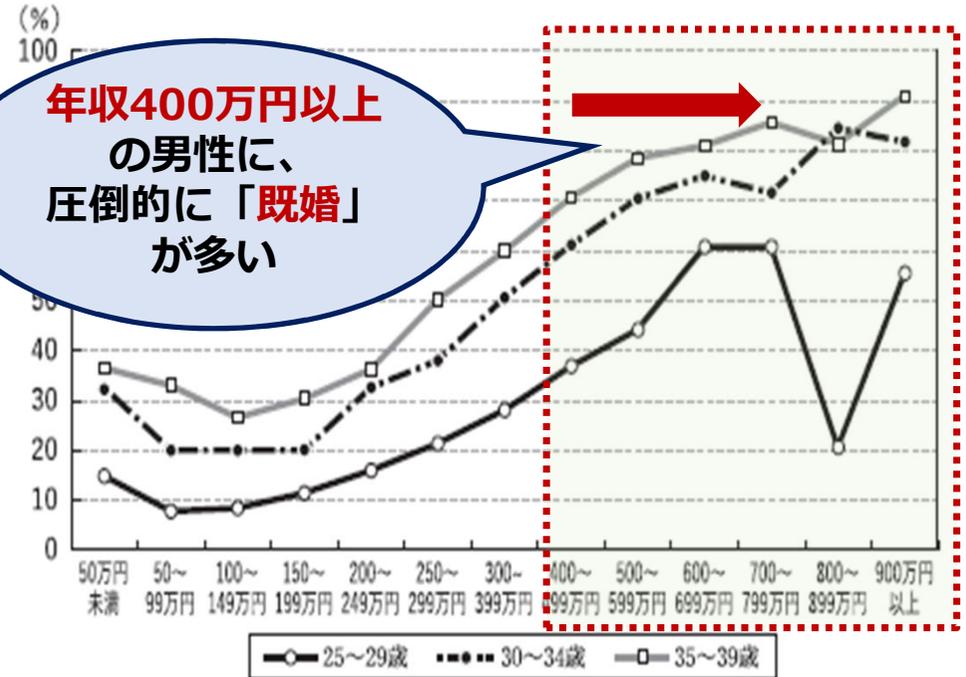
- 1990年代後半以降、男性の間でも「非正規雇用」割合が増加。近年は人手不足等もあり正規雇用が微増傾向だが、それでも2020年時点で、**25～34歳男性の7人に1人が非正規**である。
- 年収や雇用形態別に未既婚状況をみると、やはり男性で**非正規や年収300万円未満の層は、圧倒的に未婚**が多い。

【若年男女・非正規雇用割合（推移）】



出所: 2022年 内閣府「少子化社会対策白書」より

【年収別・男性（25～39歳）既婚者の割合】



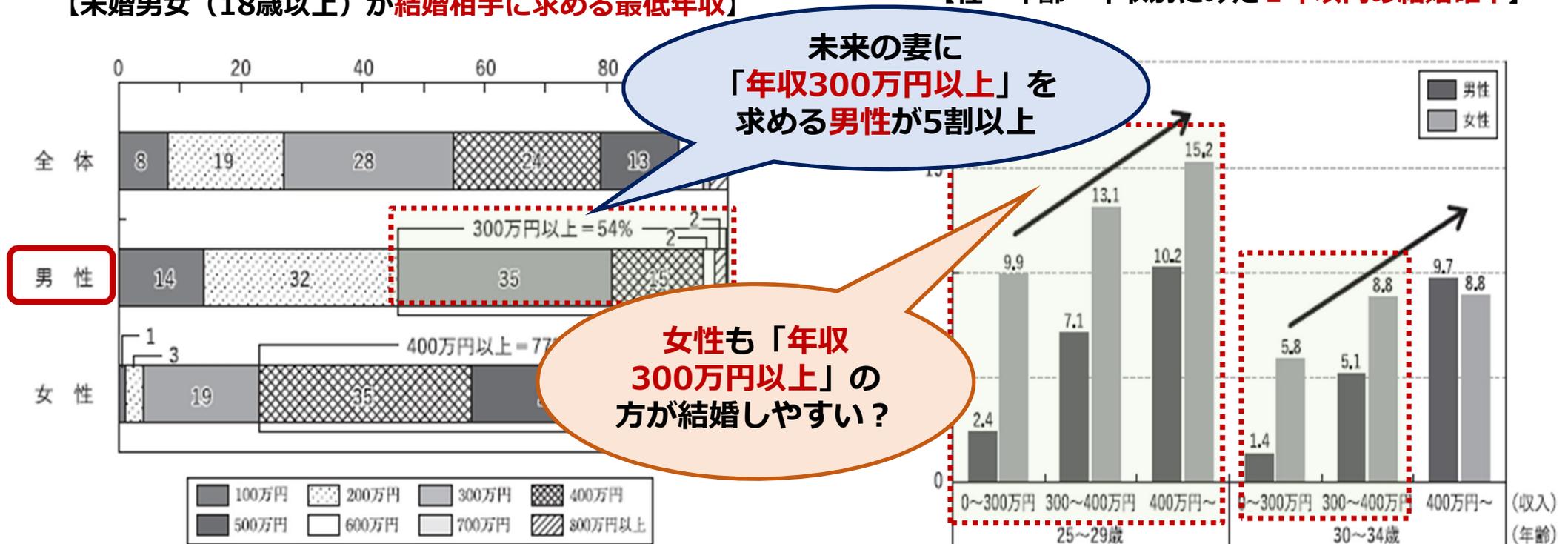
出所: 2022年 内閣府「少子化社会対策白書」を元に筆者作成

## (5) 近年における若年世代の傾向 ② 女性の年収と結婚確率

- 近年は先の通り、**女性（未来の妻）**にも「**年収**」を求める未婚男性が増え、民間の調査では「**年収300万円以上**」を求める**男性が5割以上（54%）**に達している。
- 女性の年収別に「**1年以内の結婚確率**」を見ると、やはり**女性**でも「**年収300万円以上**」のほうが**結婚確率が高い**。

【未婚男女（18歳以上）が結婚相手に求める最低年収】

【性・年齢・年収別にみた1年以内の結婚確率】



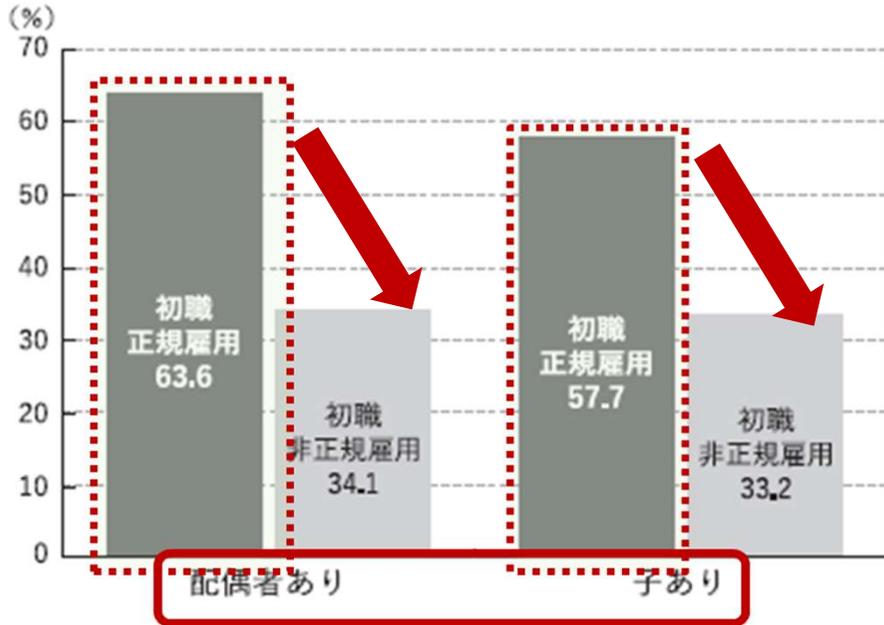
出所: 2021年 リンクバル「未婚男女の婚活・結婚意識調査」より

出所: 2018年 リクルートワークス研究所「全国就業実態パネル調査」を元に筆者作成

## (5) 近年における若年世代の傾向 ③恋愛・結婚・出産とジェンダー平等

- 2022年の連合の調査によれば、**女性も初職が「非正規」より「正規」のほうが結婚・出産割合が明らかに高い。**
- また別途、東京大学が18～39歳1万人の28年間のデータを分析したところ、**女性でも学歴や収入が低いほど、異性との交際に消極的**だった。例えば「異性との交際」に関心がないシングル（未婚・交際相手ナシ）は、全体で半数程度だったが、**女性の年収300万円未満では9割弱**にものぼった（同「日本成人における草食化の傾向及び関連する因子について」）。
- 他方、同じく連合調査で、**婚姻によって「名字（姓）」を変えた割合**を見ると、**20代では男性でも2割弱（16.1%）**が既に**姓を変えている**ことが分かる。

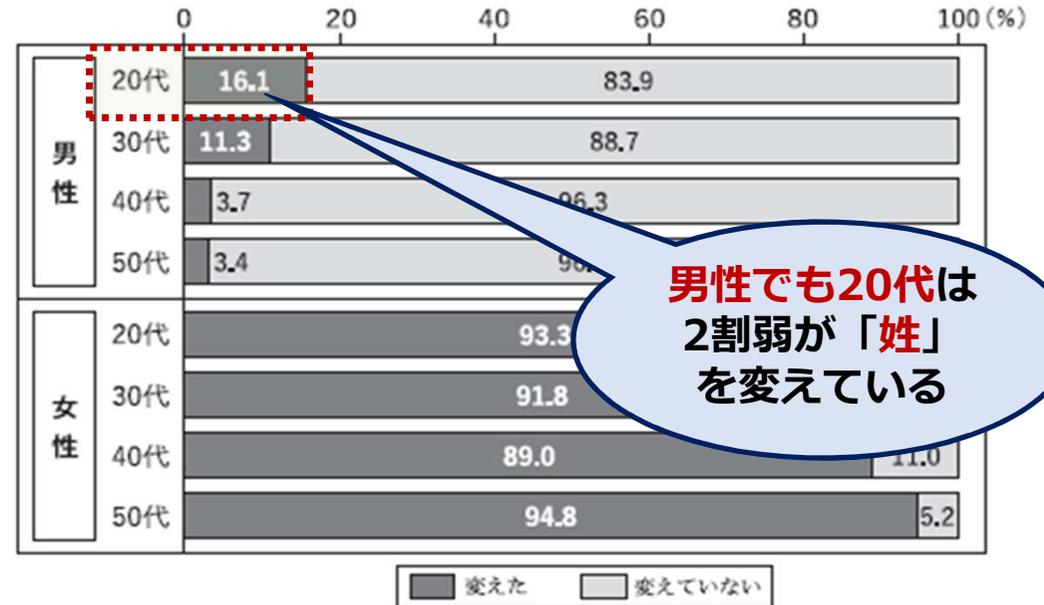
【初職の正規・非正規別：女性の結婚（初婚）・出産の状況】



出所: 2022年 連合「非正規雇用で働く女性に関する調査2022」を元に筆者作成

注: 初職とは、学校を出て初めて就いた仕事

【婚姻により名字（姓）を変えた人の割合】



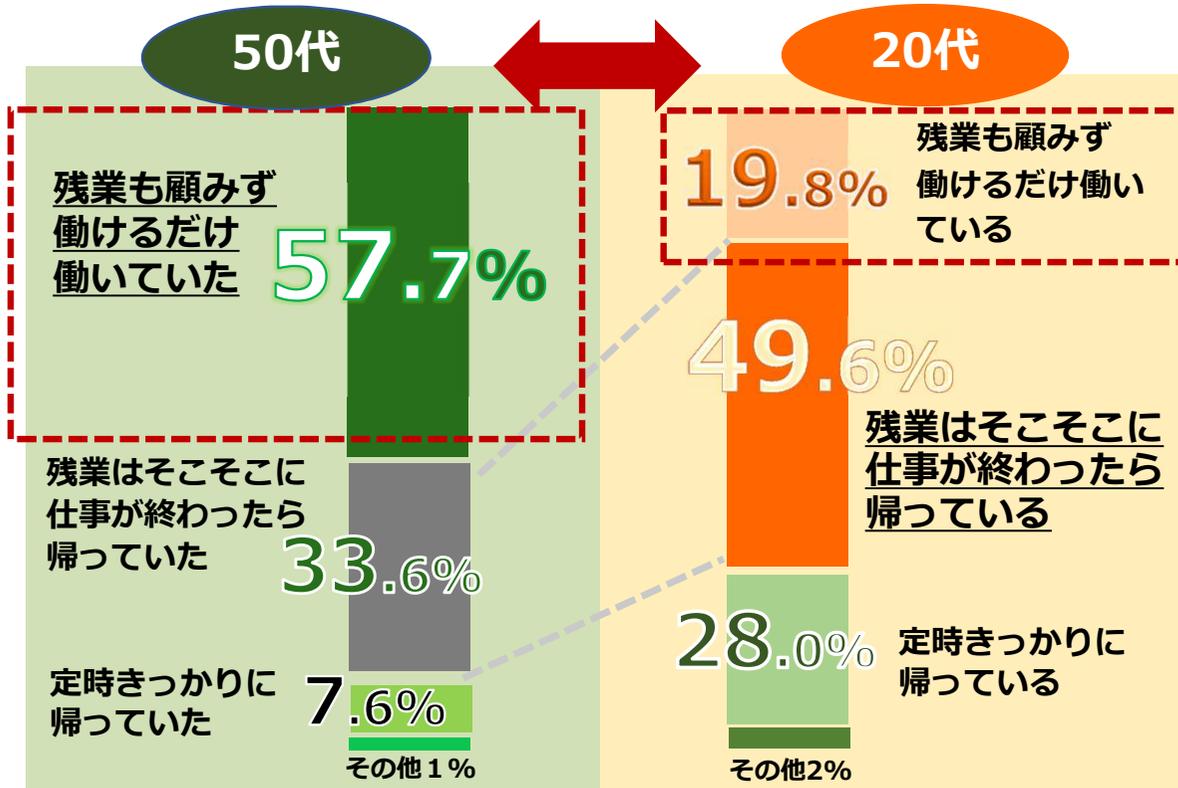
出所: 2022年 連合「夫婦別姓と職場の制度に関する調査2022」より(注: 対象、婚姻届を提出した人)

男性でも20代は  
2割弱が「姓」  
を変えている

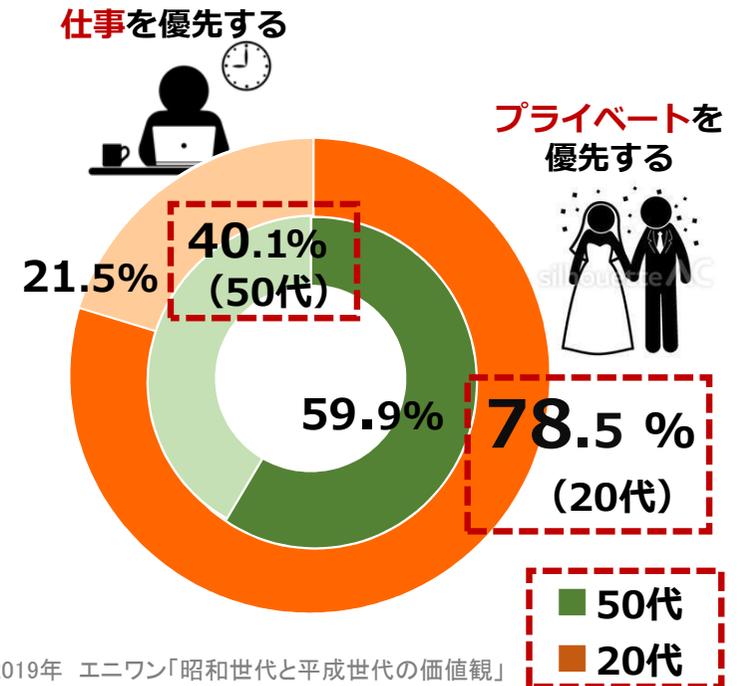
## (5) 近年における若年世代の傾向 ④働き方と世代間ギャップ

- 2019年の民間調査で、**現50代と20代**にそれぞれ「**20代時点の働き方**」を聞いたところ、「**残業も顧みず働けるだけ働いていた（いる）**」との回答は、**50代（の20代当時）**では**6割弱**にのぼるが、**20代**では**2割弱**に留まる。
- 仕事とプライベートの優先割合**でも、**20代**では**プライベート優先派**が約**8割**で、現状も**両者の優先順位には開き**がある。

### ■あなたの20代時点の働き方は？



### ■あなたは仕事とプライベート、どちらを優先させますか？

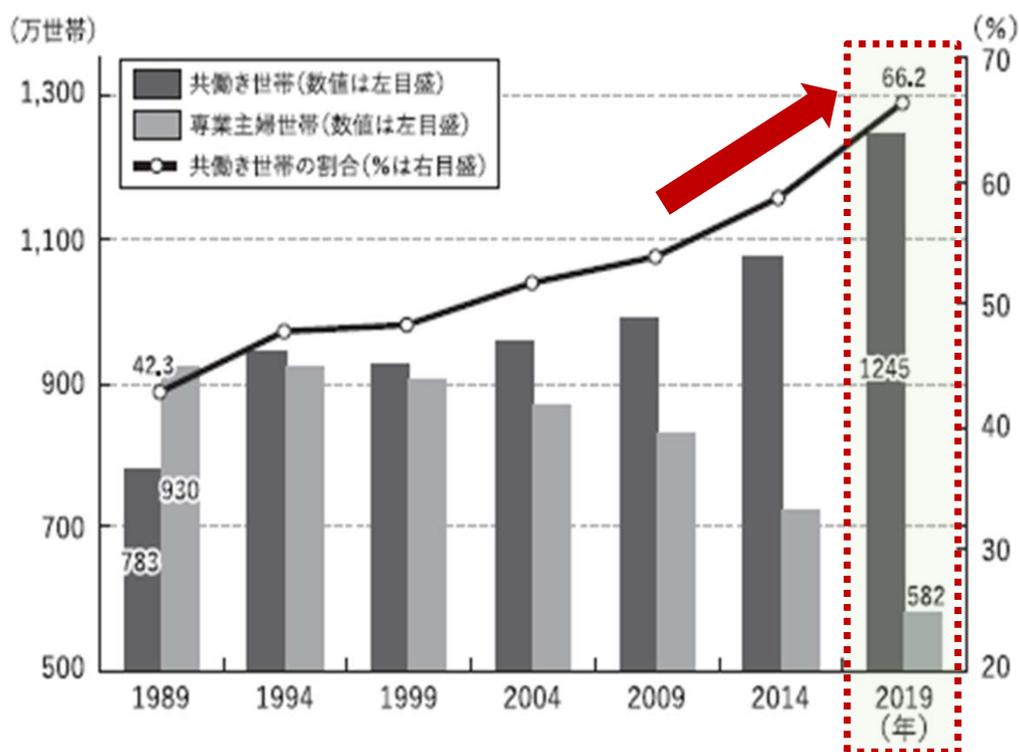


出所:2019年 エニワン「昭和世代と平成世代の価値観」に関するアンケート調査」を元に筆者作成

## (5) 近年における若年世代の傾向 ⑤ 共働き割合と家事分担のギャップ

- 近年、**共働き割合は約7割に達しており、若年夫婦では7割を超える**。彼らの多くは**理想の家事分担を「夫5：妻5（対等）」**と考えているが、**上世代の現実の家事分担の1位は、妻の認識で「夫1：妻9」、夫の認識でも「夫3：妻7」**であり、理想と現実が大きく異なる。こうした現実も、若者の**「結婚離れ」**に拍車をかけている可能性がある。

【共働き世帯と専業主婦世帯の割合（推移）】

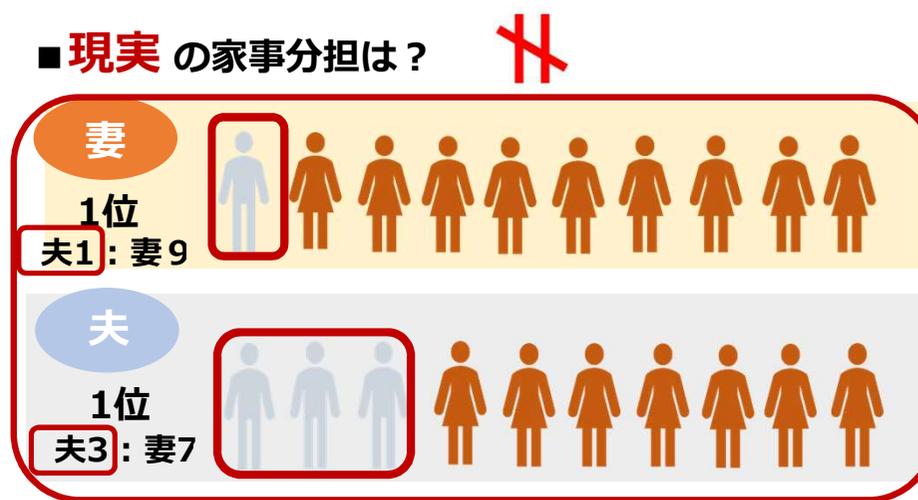


出所:2020年厚生労働省「厚生労働白書」を元に筆者作成

### ■ 理想の家事分担は？



### ■ 現実の家事分担は？

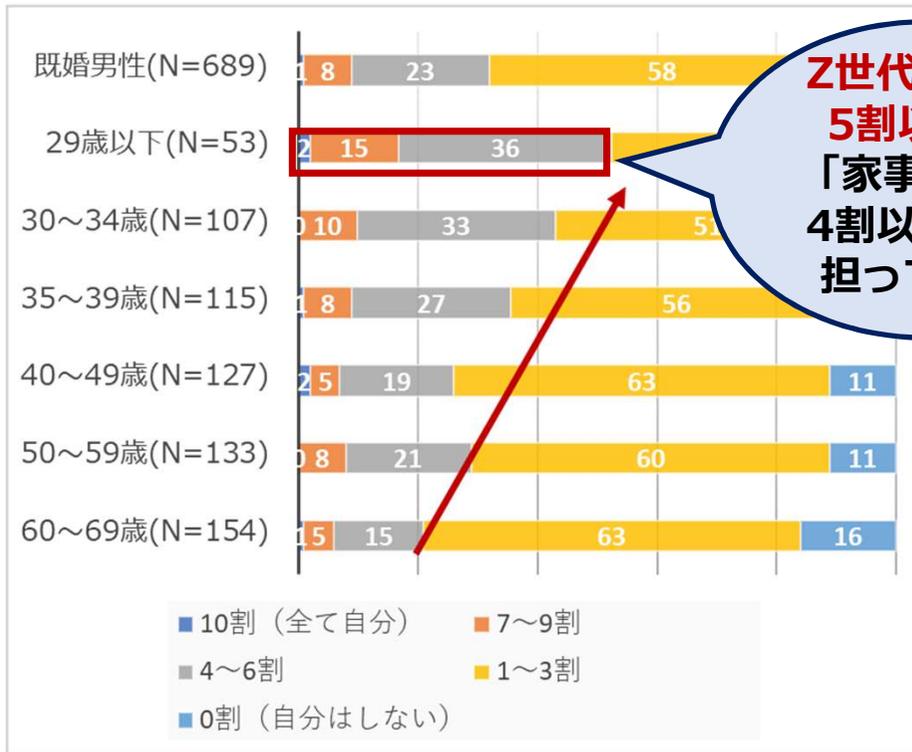


出所:2020年 三井住友カード「LikeU」調べを元に筆者作成

## (5) 近年における若年世代の傾向 ⑥ Z世代男性の家事分担と育休希望

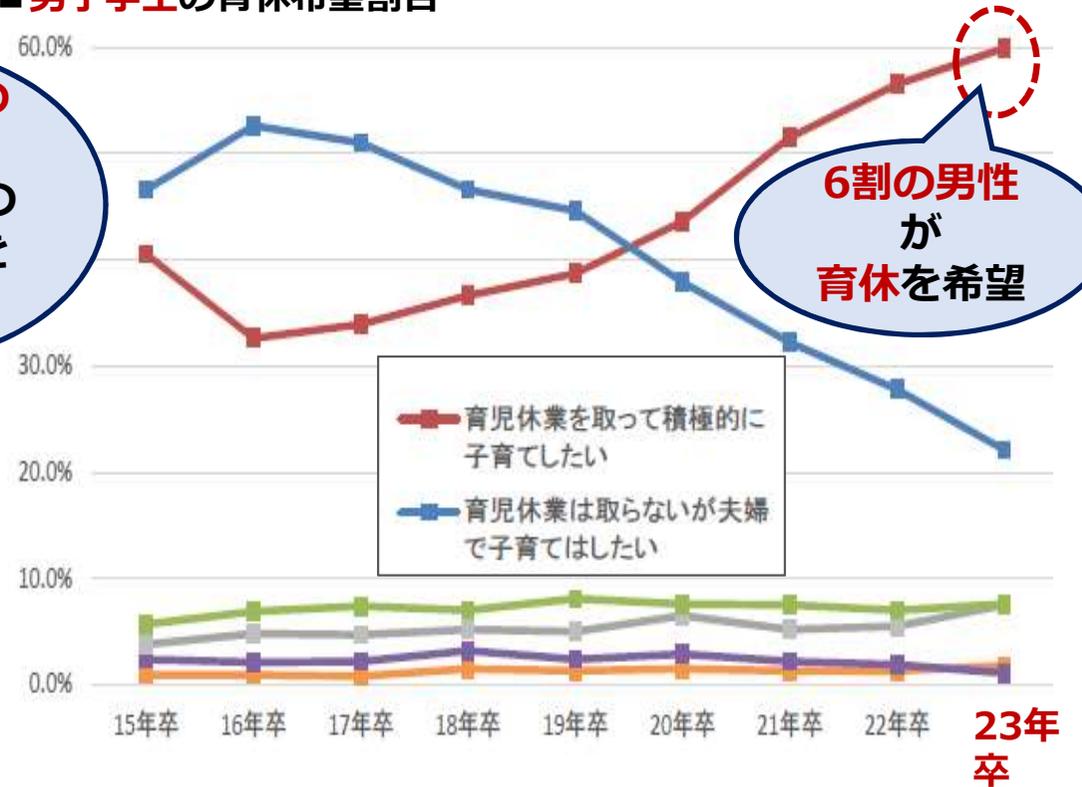
- では**Z世代の若者**に絞るとどうであろうか。ある民間の調査（2021年）では、おもに**Z世代（現29歳以下）の既婚男性**では、**5割以上が「家事全体の4割以上」**をみずから担っていると回答している。
- また**2023年卒の就活学生**でも、**6割の男性が「育休」を希望**しており、男子も育休取得に積極的な様子が見てとれる。

### ■ 既婚男性の家事分担割合



出所: 2021年 クロスマーケティング「ジェンダーレス・多様性についての意識と実態調査」より

### ■ 男子学生の育休希望割合

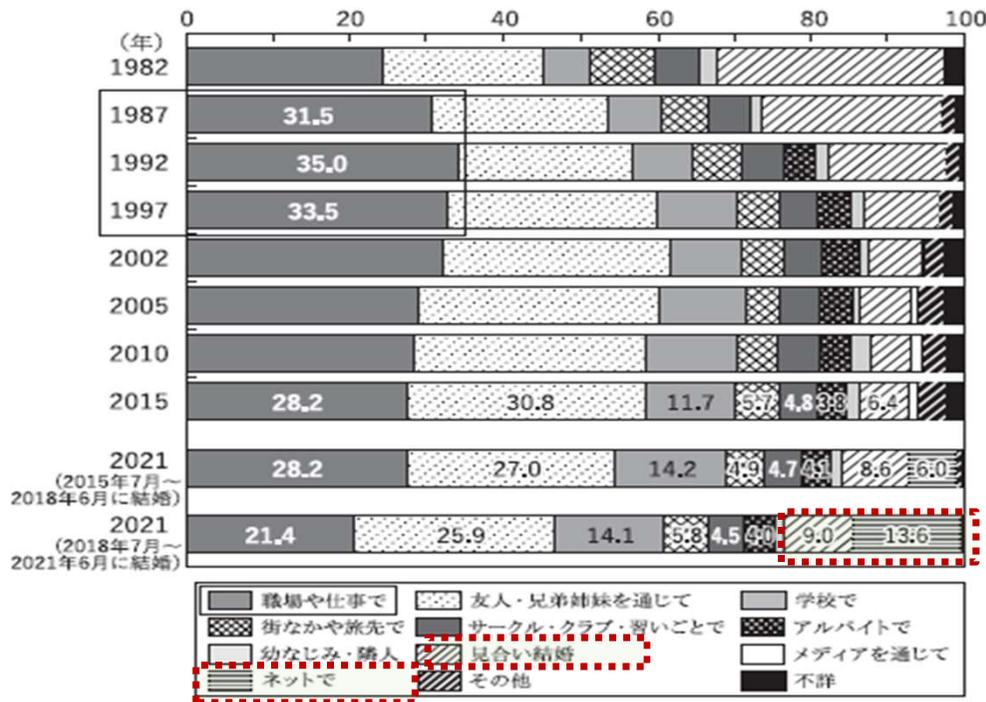


出所: 2023年マイナビ「2024年卒大学生のライフスタイル調査」より

## (5) 近年における若年世代の傾向 ⑦ 出会いの変遷と恋愛・結婚の分離意識

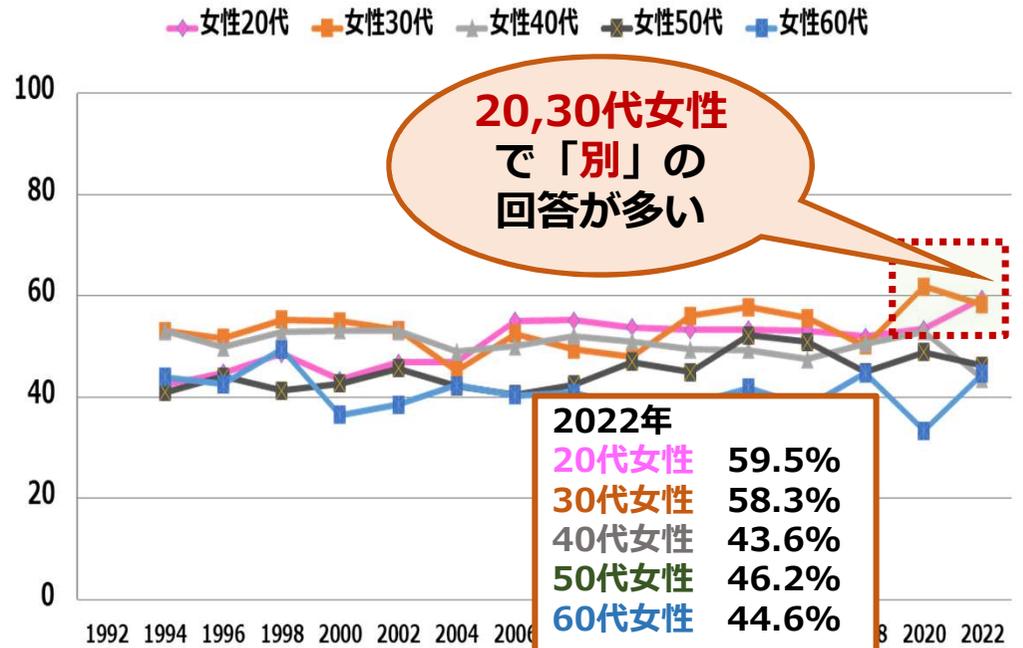
- 国の第三者機関の経年調査において、「夫と妻が知り合ったきっかけ」では、「職場や仕事で」の出会いが減る一方、「ネット」(13.6%)が**顕著に伸びている**。一方、「見合い結婚」も**微増ながら近年、増加**に転じている。
- 博報堂生活総研の経年調査によれば、「**恋愛と結婚は別なものだ**と思う」の回答は近年、若年世代で伸びており、とくに**20,30代女性の間で顕著に多い**。同調査の回答者は既婚・未婚が混在し、若年層ほど「未婚者」が多いと考えられるが、未婚段階で同回答を寄せるのは、**若者がクールな証左ではないか**。男性でも同回答は**20代(52.2%)**で最も多い。

### 【夫と妻が知り合ったきっかけ・構成割合(推移)】



出所:2021年 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」を元に筆者作成

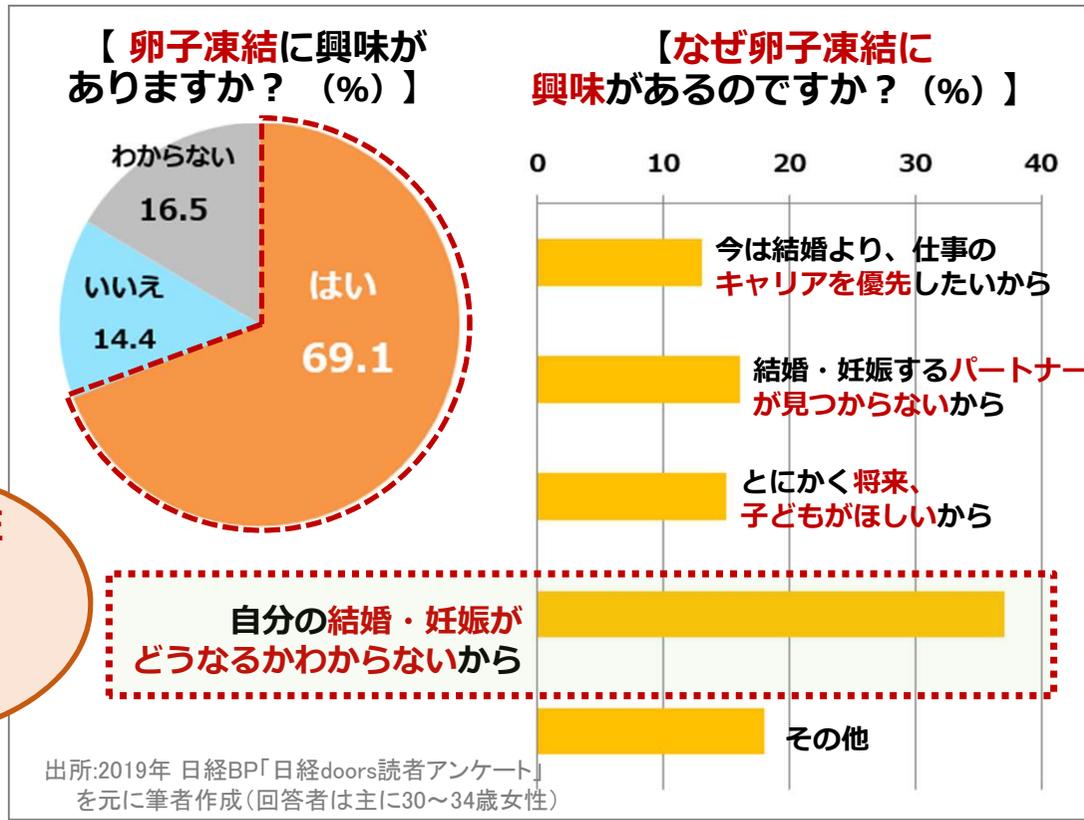
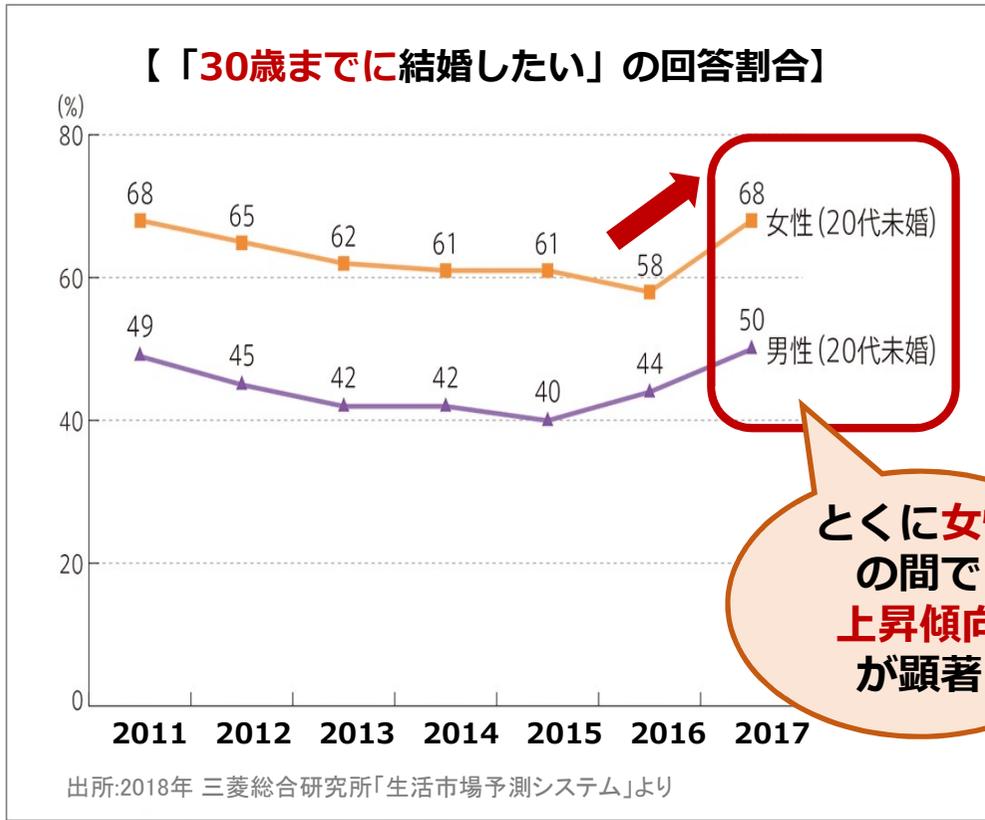
### ■ 恋愛と結婚は別なものだと思うか？



出所:2022年博報堂総合研究所「生活定点」を元に筆者作成

## (5) 近年における若年世代の傾向 ⑧早婚願望と卵子凍結意欲

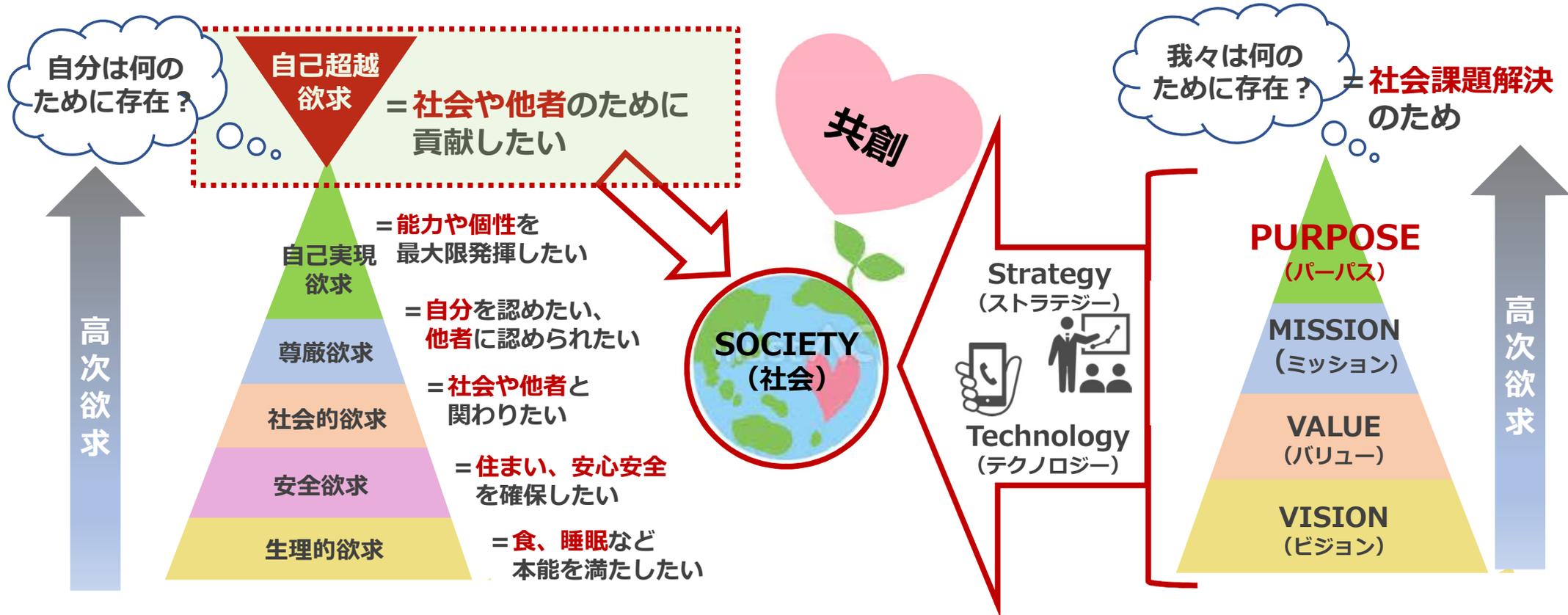
- 三菱総研の経年調査によれば、20代男女の「**早婚願望**（30歳までに結婚したい）」は近年、**上昇傾向**にある。
- また、主に30～34歳女性に聞いた民間の調査では、「**卵子凍結に興味あり**」が約7割いて、その最大理由は「**自分の結婚・妊娠がどうなるかわからないから**」であるが、「**キャリアを優先したい**」や「**パートナーが見つからない**」などの回答も1割を超える。ちなみに米国では、卵子凍結経験女性の9割が「パートナーがいらない」である。



- (1) イントロダクション
- (2) 恋愛・結婚・出産の現状
- (3) 恋愛結婚の正体
- (4) 世代区分と価値観
- (5) 近年における若年世代の傾向
- (6) 結婚イノベーションと共創結婚**

## (6) 結婚イノベーションと共創結婚 ①結婚と「共創」

- **新型コロナ**の時代を経て、若い世代が元来有していた「**イミ（意味）消費**」や「**共創（Co-Creation）**」の概念が、社会全体に浸透した感がある。企業や社会も「**パーパス経営**」の観点で、商品・サービスを提供する時代に入った
- **結婚**においても、高度経済成長期～バブル期の「**恋愛結婚**」にこだわらず、**多様な「共創結婚」**を目指すべきでは？



出所: Abraham Harold Maslow「Maslow's hierarchy of needs」などを基に筆者作成 / (地球儀・ハートイラスト:フリー素材「イラストac」<https://www.ac-illustr.com/>)

## (6) 結婚イノベーションと共創結婚 ② 「経済格差」の壁を越える

- 近年、4年制大学（昼間部）に通う学生のおよそ半数（49.6%）が奨学金を借りており、その借入金額は平均で**310万円**にもものぼる（2020年 日本学生支援機構「学生生活調査」ほか）など、学生段階から経済格差が深刻である。
- また既述の通り、経済や雇用格差が男性のみならず**女性においても**、結婚・出産に加え、恋愛への意欲に大きな影響を与えている可能性も見てとれる。若年層の結婚・出産意欲の向上は、**経済格差の是正**を無視しては語れない。

### <拙著における提言>

- ★ 提言1： **奨学金支援を、「イノベーションの源泉＝投資」と捉えるべし**
- ★ 提言2： **リスキングの拡充も含め、20代前半の学歴にこだわらない社会の実現を**
- ★ 提言3： **SNSで若者が訴える悩みに関心をもち、自分ごととして救済策を考えよ**
- ★ 提言4： **高校・大学生にもスマホ貸与やWi-Fi導入時助成などデジタル支援を**
- ★ 提言5： **「スラッジ」を避け、支援情報は、広く分かりやすく伝えよ**
- ★ 提言6： **最低賃金だけでなく「実質賃金」の下降抑制にも配慮を**
- ★ 提言7： **男女共に、非正規を「永遠の非正規」にしない施策を**
- ★ 提言8： **職業訓練では、諸条件の緩和や成長産業を見据えた新たな制度設計を**
- ★ 提言9： **時短に限らず「フレックス勤務」を拡充し、若者の就労意欲減退を防げ**
- ★ 提言10： **介護や学び直しも視野に入れ、男女とも柔軟な働き方を活用できる社会に**
- ★ 提言11： **結婚に希望を抱かせるような、就労のフレキシビリティを**

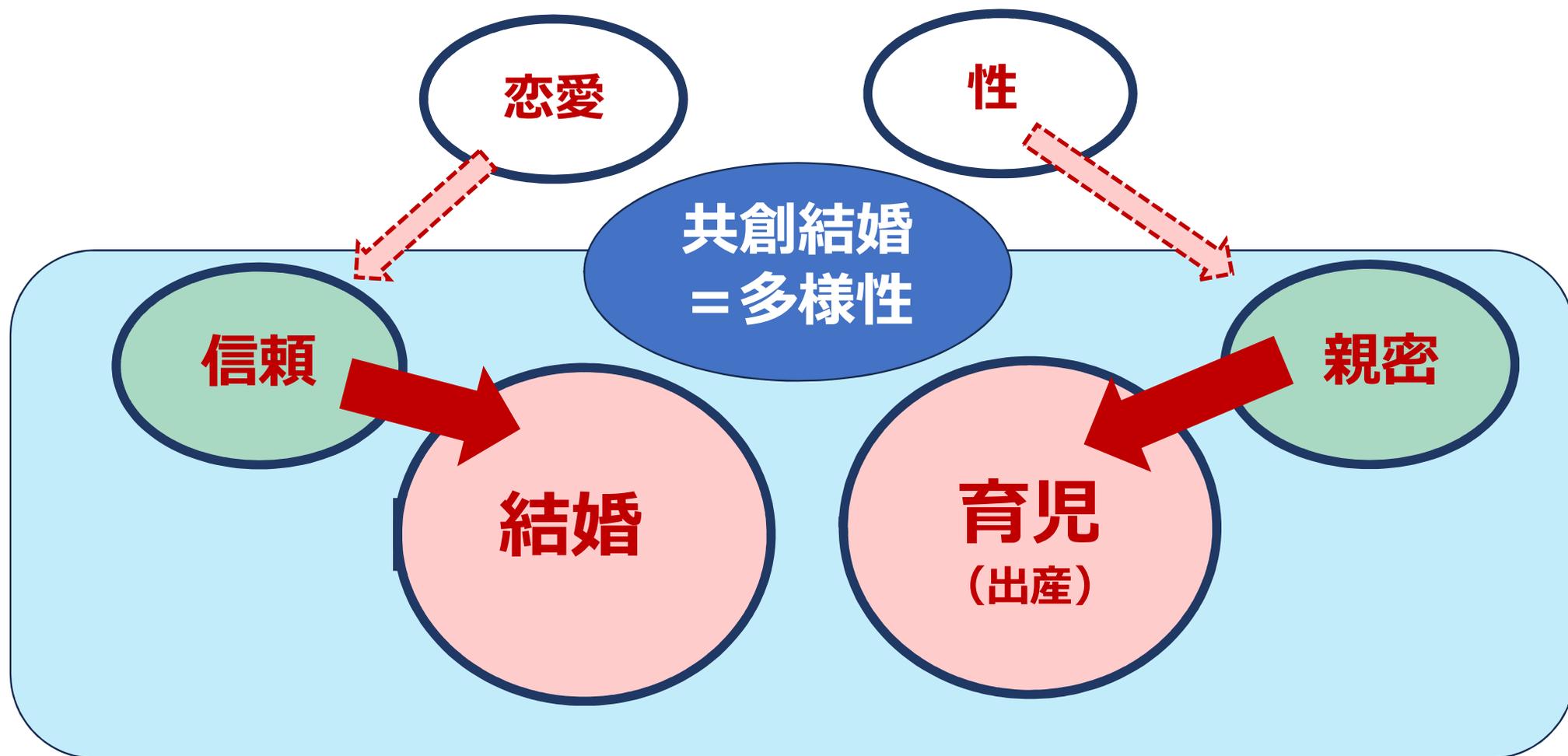
## (6) 結婚イノベーションと共創結婚 ③ 「社会通念」の壁を越える

- 結婚 = 「入籍する、異性とする、出産とセット、夫が多く稼ぐべき」といった**昭和の社会通念から脱却**する視点が必要。
- そのためには**法や社会システム**改変のみならず、**親だけでなく社会全体が未婚者の課題に寄り添い**、**産みどきや働き方**についても改めて考え直す時期に来ているものと思われる。

### <拙著における提言>

- ★ 提言12 : 「**親が支える = 当然**」ではない。若者がひとり立ちできる形の支援を
- ★ 提言13 : **空き家や移住制度**を活用し、同棲カップルにも住宅支援策を
- ★ 提言14 : 一刻も早く、**事実婚や「選択的夫婦別姓」**関連の支援や法整備を
- ★ 提言15 : **LGBT関連や同性婚の法整備**で、**婚姻制度のアップデート感**を創出せよ
- ★ 提言16 : **民間や団体も様々なカップルを受け入れ**、**多様な結婚を「見える化」**せよ
- ★ 提言17 : **健康な未婚女性も対象に**、国として**現実的な卵子凍結の議論**を始めよ
- ★ 提言18 : **不妊原因の半分は男性にも**。エビデンスを基に、正しい情報共有を
- ★ 提言19 : **企業も、卵子凍結や不妊治療を、福利厚生システム**に組み込む努力をせよ
- ★ 提言20 : **LGBTカップルも含めた、生殖医療や養子縁組制度**の議論を
- ★ 提言21 : **男性も、家事・育児を「手伝う」のではなく「担う」**べし
- ★ 提言22 : **企業も従業員本人だけでなく、その家族の健康にも繋がるサービス導入**を
- ★ 提言23 : **第一線で働き続けたい女性は、年下や低年収男性との結婚も視野に入れよ**

## (6) 結婚イノベーションと共創結婚 ④多様性の需要



※無断転載はご遠慮下さい

(本件で使用したデータは、官公庁、民間企業の出所を含め2024年3月12日時点の一般公開データですが、本件に向け、全て弊社インフィニティで再作成したものです)



2024年3月作成 インフィニティ  
<http://www.hachinoji.com/>